

フランス語大過去形の特徴的用法について

渡邊 淳也

1. はじめに¹

本稿は、フランス語の大過去形 (*plus-que-parfait*) の機能について、そしてとりわけその特異な用法について考察することを主たる目的とする。フランス語の大過去形は、完了をあらわす助動詞 (*avoir* または *être*) を半過去形 (*imparfait*) におき、そのあとに本動詞の過去分詞 (*participe passé*) を後続させたものであり、文法書などの概略的な説明では、過去における**完了** (*accompli*) または**先行性** (*antériorité*) をあらわすとされることが多いが、実際の用法には、それだけでは説明が付きそうにない独特の事例がみられる。

ここでは、のちに特異な例を扱うための前提として、大過去形の代表的な例を見ておくことにしたい。まず、過去における完了をあらわす例から見てゆこう。

(1) *Camille était ignoble. Il avait séjourné quinze jours dans l'eau. Sa face paraissait encore ferme et rigide ; les traits s'étaient conservés, la peau avait seulement pris une teinte jaunâtre et boueuse.*

(Zola, *Thérèse Raquin*, cité dans Barceló et Bres 2006, p.86)

[発見されたカミーユの遺体について] カミーユはひどく汚れていた。彼は2週間も水につかっていたのだから。彼の顔はまだ毅然と、しっかりしているように見えた。目鼻立ちは保たれていた。ただ、皮膚は黄色く、泥の色合いを帯びていた。

(1) では、冒頭の半過去形 *était* が、カミーユの遺体が発見された時点におかれた視点からみて、その遺体の状態をのべている。そして、太字にした3つの大過去形は、おなじ時点に視点をおいたまま、その視点からみた「完了」を示している。ここでいう「完了」とは、それぞれ、**過去分詞におかれた本動詞があらわす事行** (*procès*)² が**尽くされたあとの結果状態** (*état résultant*) のことである。たとえば、*avait séjourné* 「過ごしていた」に関しては、遺体が水に沈んでいた期間が経過しきったあとの結果状態が、視点となる遺体発見時点に残存していたことを示している。のこる2つの大過去形、*s'étaient conservés* 「保たれていた」、*avait pris* 「帯びていた」もまた、いずれも、遺体が水に沈んでいた期間に起きた事行が終わったあとの結果状態が、視点となる遺体発見時点において存在していたことを示している。

先行性をあらわす例としては、つぎのようなものをあげることができる。

¹ この論文は、科学研究費 (JSPS Kakenhi) 基盤研究 (C) 課題番号 25370422 「フランス語および日本語におけるモダリティの発展的研究」(研究代表者：渡邊淳也)、基盤研究 (C) 課題番号 17K02804 「日英語ならびに西欧諸語における時制とその関連領域に関する発展的研究」(研究代表者：和田尚明)、基盤研究 (B) 課題番号 18H00667 「ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト・モダリティ・エビデンシャルティの対照研究」(研究代表者：山村ひろみ) の助成をうけて行なわれた研究の成果の一部である。

² 動詞が指示する行為、状態などを総称して「事行」(*procès*) という。

(2) Jacques regarda sa montre, vit qu'il était quatre heures déjà ; et, il se hâta de retourner à l'impasse d'Amsterdam. Jusqu'à midi, Séverine **avait dormi** profondément. Ensuite, réveillée, surprise de ne pas le voir là encore, elle **avait rallumé** le poêle ; et, vêtue enfin, mourant d'inanition, elle **s'était décidée**, vers deux heures à descendre manger dans un restaurant du voisinage.

(Zola, *La Bête humaine*, cité dans Barceló et Bres 2006, p.90)

ジャックは時計を見て、もう 4 時だとわかった。そして彼は、アムステルダム袋小路に急いでもどった。正午まで、セヴリーヌは深く眠っていた。そして、目覚めて、まだジャックがいないことにおどろき、ストーヴを再びつけた。そして、やっと着がえたら、栄養失調で死にそうになっていたのもので、彼女は 2 時ころ、近所のレストランに食事をしに行こうと決心した。

この例が (1) とちがうところは、結果状態が問題になっているのではなく、大過去形におかれた本動詞の事行そのものが問題になっている、ということである。はじめの文で、(午後) 4 時に視点がおかれる。その視点からみて、大過去形 *avait dormi* 「眠っ (てい) た」で示された事行は、先行している。この際、留意したいことは、*jusqu'à midi* 「正午まで」という前置詞句があることから、ここでは *dormir* 「ねむる」という事行の完了後の結果状態ではなく、完了以前の事行そのものが問題になっているということである。また、最後の *s'était décidée* 「決心した」については、*vers deux heures* 「2 時ころ」という前置詞句がともなっているが、これさえ、「2 時ころに、決心後の結果状態になっていた」というよりは、「決心そのものが 2 時ころになされた」ということではなかろうか。また、3 つの大過去形で示された事行は継起 (*succession*) の関係にあることから、結果状態というよりは、それぞれの事行そのものが問題になっていると見るべきであろう。

大過去形はまた、間接話法の補足節でも用いられる。

(3) Elle se demandait si elle **avait montré** assez de hargne à l'égard de la Grande-Bretagne

(Déon, *Taxi mauve*, p.207, cité dans Grevisse et Goose 2011, §844).

彼女はグレート・ブリテンに対して十分な闘志を示したかと自問した。

これについては、完了や先行性といったわく組みより、**時制の照応** (*concordance des temps*)、すなわち、(3') のような直接話法から (3) のような間接話法への変換にともない、体系的に時制が変化する現象の一環として説明されることが一般的であった。(3') で太字にした複合過去形が、(3) で太字にした大過去形へと変化しているということである。

(3') [(3) に対応する直接話法] Elle se demandait : « **Ai-je montré** assez de hargne à l'égard de la Grande-Bretagne ? »

彼女は自問した、「わたしはグレート・ブリテンに対して十分な闘志を示したか」と。

諸用法は連続的であり、もとよりどこまでが「代表的な例」といえるかは微妙であるが、いまはひとまず以上の例にとどめておく。

本稿の次節以降の論述は、つぎに示すような手順からなる。2 節で、本稿で依拠する大過去形の基本図式を提示する。3 節で、2 つの主要な用法への基本図式の適用をこころみる。4 節では「説明の大過去形」、5 節では物語における大過去形の連鎖的使用という、フランス語に独特と思われる用法について、他のロマンス諸語との比較をまじえながら考察する。

なお、本稿は大過去形の特異な用法のいくつかに焦点をあてるものであり、大過去形の用法を網羅的に扱うものではない。とくに、si... 節中での大過去形については、渡邊 (2014 a) を参照されたい。

2. 大過去形の基本図式

大過去形についても、ほかの時制と同様に、諸用法のちがいをこえて、時制形式そのものが一貫して保持していると考えられる基本図式を想定することができる。そして、一見したところでは異質な各用法は、時制形式としての基本図式と、文脈的な要因とがあわさった結果出てくるものと考えることができる。以下では、大過去形のさまざまな用法に通底する機能を説明する基本図式を提示しておきたい。

大過去形の基本図式は、構成原理にそって理解できる。すなわち、前節でものべたように、大過去形は完了の助動詞の半過去形と、本動詞の過去分詞をあわせもつ形式であるので、基本的図式についても、それらの要素を組みあわせることによって構築することが妥当である。

過去分詞は、過去分詞におかれた動詞の事行が完遂された (accompli) 直後からはじまる結果状態への移行をあらわす³。一方、半過去形は、半過去形におかれた動詞の事行を、その事行が展開しつつある中途のみを視野におさめる視点から眺望すること、すなわち、Novakova (2001, p.217) の用語でいう入射的視点 (vision incidente) をあらわす⁴。

これらを総合することにより、つぎのような基本図式を設定することができる。

(4) 大過去形の基本図式

大過去形におかれる本動詞の事行を P とし、助動詞の事行を Q とする。Q は P の結果状態に対応する。

Q は過去時 t_1 に位置づけられ、発話者の視点 (point de vue, PDV) は t_1 におかれる。Q はその状態性からして、 t_1 に前後する時区間を広くおおうが、PDV はその中途のみを対象とする。

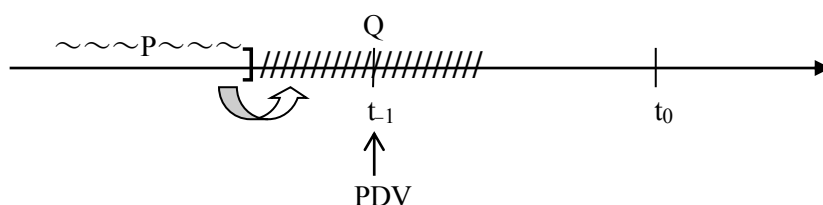
P は、直接定位されることはなく、その事行が完遂されたあとの結果状態 Q が t_1 に位置づけられるという形で、間接的に定位される。

この基本図式を図説すると、つぎの<図 1>のようになる。

³ 過去分詞の各用法に即した検討は、渡邊 (2014 b) を参照されたい。

⁴ 半過去形の各用法に即した検討は、渡邊 (2012) (2014 a) を参照されたい。

<図1：大過去形の基本図式>



~~~~P~~~~ が過去分詞におかれた動詞がさす事行であり、] がその終端である。//////////で示したのが、P が尽くされた以降の結果状態 Q である。過去分詞は P から Q への移行 (図中では弧状の矢印で示されている) をあらわす。t<sub>0</sub> が発話時、t<sub>1</sub> が過去時であり、助動詞の半過去形によって、視点 PDV が t<sub>1</sub> におかれることが示される。PDV は Q の中途のみを対象とする。

大過去形は、P の結果状態 Q を指示するという点で、結果残存型の完了相<sup>5</sup>である。しかしそれと同時に、Q の中途のみを問題としているという意味では未完了相であり、完了・未完了の両方の性質をかねそなえた形式であるということを、後論のためにおさえておきたい。

大過去形を用いる場合、結果状態を見る視点 PDV が過去時 t<sub>1</sub> におかれることは、複合過去形を用いる場合に結果状態を見る視点 PDV が発話時 t<sub>0</sub> におかれることと対比すると理解しやすい。この点については、川本 (1985) が紹介するつぎのような挿話が参考になる。

(5) ある日わたくしはフランス人の L 氏を訪ねた。L 氏は旅行中で留守であったので、同氏の若い秘書に会って用を足した。秘書はわたくしのかつての教え子で、フランス語の達者な青年である。それから数日して、その秘書がこんな経験を語ってくれた。

「あの翌日 L 氏が帰ってきました。いろいろ話をしてから、「**Monsieur Kawamoto est venu vous voir**」と言いましたら、L 氏が「何故お待たせしておくのだ。早くお通ししなさい」と言うのです。それで、「いいえ、昨日のことです」と言いますと、L 氏が、「そんなら何故 **Monsieur Kawamoto était venu**」と言わないのだ」と言うのです。

(川本 1985, p.149; 強調渡邊)

ここで複合過去形 **est venu** を用いると、過去分詞 **venu** によってあらわされる結果状態を見る視点 PDV が発話時 t<sub>0</sub> になり、「川本氏が来た」ことの結果が発話時に残存している、つまり川本氏がいま L 氏のところにいるという意味になってしまう。それに対し、大過去形 **était venu** を用いると、結果状態を見る視点 PDV は過去時 t<sub>1</sub> (ここでは昨日) におかれるため、結果状態は発話時にはおよばない解釈になる、ということである。

この例はまた、過去時 t<sub>1</sub> は表面的に明示されていなくてもよくて、むしろ、大過去を用いることによって視点である過去時 t<sub>1</sub> の存在が暗示されうる、ということも示している。助動詞が半過去形におかれていることの意味はそこにある。Berthonneau et Kleiber (1993, p.66) が主張しているように、半過去形には、過去の時間的状況 (situation temporelle du passé) を先行詞としてうけ

<sup>5</sup> 本稿でいう「結果残存型完了相」は、Guillaume (1929, p.23) および Barceló et Bres (2006, p.13) のいう aspect extensif、Comrie (1976, p.56) のいう perfect、Novakova (2001, p.218) のいう aspect accompli に相当する。

なお、照応的時制としての性格がある。そして、照応全般の性質としていえることであるが、先行詞はかならずしもテキスト的に明示されていなくてもよい。むしろ、Berrendonner (1983) がいうように、照応語が先行詞の存在を暗示するとともに、それを探索させる司令を発するのである。大過去形においても、そのなかに含まれる助動詞が半過去形におかれているということは、視点となる過去時  $t_1$  (に対応する状況) の存在が前提とされているために、かならずしも  $t_1$  に関する明示的言及がなくてもよいことを意味するのである。

### 3. 完了から先行性へ

一見したところ、(4) で示した大過去形の基本図式は、(1) のような完了用法にはよく適合するものの、(2) のような先行性用法には相いれないように思えるかもしれない。この点については、「本動詞の事行 P から結果状態 Q に移行したということは、事行 P は Q よりも前方 (過去方向) にあるということである」という推論によって先行性用法が派生したと考えられる。もとより、(4) の仮説によると、P の位置は直接的にはさだめられていないのであるから、その定位は推論によってなされる。また、結果状態 Q は、助動詞が半過去形におかれていることにより、未完了相で提示されている。未完了相は、中途のみを見るアスペクトであり、始点と終点は不分明である。そのことから、「Q 以前」への拡大使用も、比較的容易になると考えられる。

大過去形において完了用法と先行性用法があるということは、複合過去形にも完了用法と過去用法があり、前者から後者が派生したことも平行的である。さらにいうと、複合過去形のふたつの用法が渾然一体となった事例も少なくない。つぎの例文でそのことを確認しよう。

(6) **J'ai reçu un mot de Grenier, carte datée de Fontainebleau. Faites-lui mes amitiés.**

(Lettre de Georges Palante à Louis Guilloux du 2 juin 1919)

グルニエくんから短信をいただきました。フォンテーヌブローからさしだされた葉書でした。彼によろしく伝えてください。

(6) における複合過去形 *j'ai reçu* は *recevoir* 「受けとる」という動詞が示す事行が完遂したあとの結果状態を「わたし」がもっていることを意味している（ここでいう結果状態とは、葉書が手もとにあることだけでなく、連絡に感謝しているなど、たよりを受けとったあとの状態をひろく示すものとする）が、それと同時に、当該の事行を過去に位置づけるという機能も矛盾することなく両立している。

大過去形においても、完了と先行性のふたつの意味がみとめられる例がある。

(7) **Je n'avais rien d'autre à faire pendant la journée puisque j'avais abandonné mes études et que j'avais gagné un peu d'argent [...]** (Patrick Modiano, *Chien de printemps*, cité dans Touratier 1996, p.153)

わたしは昼間にすることはほかになにもなくなっていた。というのも、学業を放棄していたし、いくらかの金もかせいでいたからである。

(7) においては、問題となっている過去時以前に学業を放棄し、お金もかせいでいたという先行性の解釈と、その結果状態のなかで暇をもてあましていう完了解釈が両立している。

#### 4. 説明の大過去形

本節以降では、コーパスで観察できるフランス語の大過去形に特徴的な用法を検討してゆく。

フランス語には Le Bidois et Le Bidois (1935, vol. 1, p.434) が命名した用法である「説明の半過去形」(imparfait d'explication) がある。フランス語の特徴をとらえるためにも、他のロマンス諸語と対訳になっている、つぎの例文 (8) で確認しよう<sup>6</sup>。

(8) 山村科研コーパス §.6 #1519~1520

[仏] Ils étaient mariés depuis dix ans quand M. Denman mourut subitement. Comme ils n'avaient pas eu d'enfants, toute sa fortune **revenait** [半過] à Mabel.

[伊] Dopo dieci anni di matrimonio, il signor Denman morì all'improvviso. Non c'erano figli, ed egli **lasciò** [単過] tutto il suo denaro a Mabel.

[西] Llevaban diez años casados cuando el señor Denman falleció repentinamente. No habían tenido hijos y **dejaba** [半過] todo su dinero a Mabel.

[葡] Estavam casados havia dez anos, quando Mr. Denman morreu subitamente. Não tinham filhos e ele **deixou** [単過] todo o seu dinheiro a Mabel.

[伯] Estavam casados há dez anos quando o sr. Denman morreu subitamente. Não tinham filhos, e ele **deixara** [大過] todo seu dinheiro para Mabel.

[羅] Erau căsătoriți de vreo zece ani când domnul Denman a murit subit. Nu au avut copii, așa că Mabel a

---

<sup>6</sup> フランス語と他のロマンス諸語との対照をとまなう例文は、科学研究費助成基金 (JSPS Kakenhi) 基盤研究 (C) 15K02482 による共同研究の一環として作成された、ロマンス諸語ならびに英語の各言語約 7 万語の平行コーパス (以下、山村科研コーパスという) からの引用である。例文引用の末尾には、章番号 (§) と文の通し番号 (#) を示した。コーパスの作成にもちいられた原典は、つぎのとおりである。

- ・英語版 (原作) : Agatha Christie, *The Thirteen Problems*, Harper Collins Publishers, 2002.
- ・フランス語版 : Agatha Christie, *Miss Marple au Club de mardi*, Sylvie Durastanti 訳, Éditions de Masque, 2013.
- ・イタリア語版 : Agatha Christie, *Miss Marple e i tredici problemi*, Lydia Lax 訳, Arnold Mondadori Editore, 1981.
- ・スペイン語版 : Agatha Christie, *Miss Marple y trece problemas*, C. Peraire de Molino 訳, Delbolsillo, 2003.
- ・ポルトガル語版 : Agatha Christie, *Os Treze Enigmas*, Maria de Fátima Saint-Aubyn 訳, Edições Asa, 2012.
- ・ブラジルポルトガル語版 : Agatha Christie, *Os Treze Problemas*, Petrucia Finkler 訳, L & PM, 2015.
- ・ルーマニア語版 : Agatha Christie, *Treisprezece probleme*, Cristina Mihaela Tripon 訳, București, Editura RAO, 2014.

例文提示では、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガルポルトガル語、ブラジルポルトガル語、ルーマニア語を順に [仏]、[伊]、[西]、[葡]、[伯]、[羅] と略する。また、フランス語をふくむロマンス諸語に対して、つぎのような時制・叙法の略称を用いる。[現] 現在形、[複過] 複合過去形、[単過] 単純過去形、[大過] 大過去形、[条現] 条件法現在形、[条過] 条件法過去形、[接現] 接続法現在形、[接半過] 接続法半過去形、[接大過] 接続法大過去形、[不] 不定法。なお、ポルトガルポルトガル語、ブラジルポルトガル語の大過去形には単純形、助動詞 *haver* を用いる形、助動詞 *ter* を用いる形の 3 つがあるが、ここでは区別していない。例文には本稿筆者がフランス語版からの和訳をつけた。

**moștenit** [複過] toată averea lui.

彼らは結婚して10年たったが、デンマン氏が急死した。こどもはいなかったので、遺産はすべてメイベルが相続したのだった。

これは日本語の「のだ」文に比せられる用法であり、理由や背景的事情を説明する際、**事態そのものは完了的である** (対訳のイタリア語、ポルトガルポルトガル語の単純過去形、ルーマニア語の複合過去形という、それぞれ物語の基本となる時制を用いていることからわかる) **にもかかわらず、あえて未完了相でとらえ直す、「叙想的アスペクト」(aspect de dicto) の事例であると**考えられる (叙想的アスペクトに関しては 渡邊 (2012) (2014 a) (2014 b) (近刊) を参照)。

(8) ではスペイン語でも半過去形が使われているが、こちらには叙想性はみられず、遺産相続の手はずをのべており、実際に遺産を Mabel が相続したことは推論によって理解される<sup>7</sup>。

一方、ブラジルポルトガル語で用いられている「説明の大過去形」はフランス語の「説明の半過去形」の「背景的」な性質とはちがっており、(Mabel の心証を悪くする、すくなくとも一因にはなっている) 重大な事態としての提示というニュアンスがある<sup>8</sup>。

一方、フランス語にも実は「説明の大過去」というべき用法は存在する。つぎの例をみよう。

(9) Quand Gervaise **s'éveilla** [単過], vers cinq heures, raidie, les reins brisés, elle **éclata** [単過] en sanglots. Lantier **n'était pas rentré** [大過]. (E. Zola, *L'Assomoir*, p.2)

ジェルヴェーズが5時ころに目覚めたとき、からだがかわばっていて、腰が痛く、わっと泣きだした。ランティエはもどって来ていなかったのだ。

この例での大過去は、ランティエがジェルヴェーズが泣きだす以前にはもどって来ていなかった、という時間関係にもとづいて用いられているが、同時に、ジェルヴェーズが泣きだしたことの理由説明にもなっている。

イタリア語でも、大過去形に説明用法はみとめられている。背景的であり、フランス語の「説明の大過去形」に類する用法である。

(10) La povera fanciulla emise [単過] un grido e cadde [単過]. **Era svenuta** [大過]. (坂本 2009, p.229)

その気の毒な娘は叫び声をあげて倒れた。気絶してしまったのだ。

コーパスにもつぎのような例がみられる。これらのうち、時制の照応などの他の理由で用いら

<sup>7</sup> 山村ひろみ先生 (九州大学) からのご教示による。

<sup>8</sup> ギボ・ルシーラ先生 (上智大学) からのご教示による。さらに Gibo (2018) を参照。« o mais-que-perfeito simples apresentou dentro do corpus a função de « aumentar o nível de tensão da narrativa ». » (Gibo 2018, p. 14) 「単純大過去形は、コーパスのなかで、『語りの緊張度を上げる』機能を示していた」

れている大過去形をのぞいた大過去形は、「説明の大過去形」とみなすことができる<sup>9</sup>。「説明の大過去形」が多くみられるフランス語、イタリア語では、「説明の大過去形」と解釈できる大過去形に下線をほどこした。また、長文の例であるため、言語間で比較できるよう、フランス語版を基準として、各言語で対応する定動詞に [1]、[2]、[3]... のように番号をつけている。

(11) 山村科研コーパス §.1 #114~124

[仏] Aussi discrètement que possible, Scotland Yard **tenta** [1][単過] d'élucider les rumeurs lui attribuant une liaison avec la fille du médecin ; mais il **apparut** [2][単過] qu'après avoir été très liés, ils **s'étaient brouillés** [3][大過] brusquement deux mois auparavant, et ne **s'étaient pas revus** [4][大過] depuis. Quant au médecin, homme d'un certain âge et au-dessus de tout soupçon, il **fut** [5][単過] abasourdi en apprenant le résultat de l'autopsie. Appelé aux alentours de minuit, il **avait trouvé** [6][大過] trois personnes indisposées. Mesurant aussitôt la gravité de l'état de Mme Jones, il **avait envoyé** [7][大過] chercher au dispensaire des pilules opiacées pour alléger ses souffrances. Cependant, en dépit de ses efforts, la malheureuse **avait succombé** [8][大過] sans qu'il **eût** un instant **soupçonné** [9][接大過] quoi que ce **soit** [10][接現]. Il **était** [11][半過] convaincu que sa mort **était** [12][半過] due à une forme de botulisme. Le dîner **s'était composé** [13][大過] de homard en conserve, salade, fromage, pain et pudding. Par malheur, le homard **avait été mangé** [14][大過] jusqu'à la dernière miette, et la boîte de conserve jetée aux ordures. Il **avait interrogé** [15][大過] la jeune bonne, Gladys Linch. Non sans peine car elle **était** [16][半過] bouleversée, agitée et larmoyante. Mais elle n'**avait pas cessé** [17][大過] de répéter que la boîte n'**était** [18][半過] pas déformée et que le homard lui **avait paru** [19][大過] tout à fait bien.

« Tels **étaient** [20][半過] les faits sur lesquels nous **devions** [21][半過] nous appuyer. Si Jones **avait administré** [22][大過] de l'arsenic à son épouse, il **paraissait** [23][半過] clair qu'il ne l'**avait pas mis** [24][大過] dans ce qu'ils **avaient mangé** [25][大過] au dîner, puisqu'ils **avaient** tout **partagé** [26][大過]. Sans compter — autre détail — que Jones **était rentré** [27][大過] de Birmingham comme on **apportait** [28][半過] le souper sur la table, si bien qu'il n'**avait pas eu** [29][大過] la possibilité de modifier la nourriture à l'avance.

[伊] **Indagammo** [1][単過] con molta discrezione sul suo interessamento per la figlia del medico, ma **risultò** [2][単過] che, dopo una certa amicizia, due mesi prima c'**era stata** [3][大過] una brusca rottura e che non **si erano più visti** [4][大過]. Il medico, un uomo anziano, onesto e insospettabile, **restò** [5][単過] sorpreso di fronte al risultato dell'autopsia. **Era stato** [大過、仏語に対応箇所なし] chiamato verso mezzanotte per visitare i tre che **si erano sentiti** [大過、仏語に対応箇所なし] male, **si era** subito **reso** [6][大過] conto delle gravi condizioni della signora Jones e **aveva mandato** [7][大過] a prendere nel suo studio delle pillole di oppio per calmarle i dolori. Nonostante questo, però, la donna **era morta** [8][大過].

<sup>9</sup> 例 (8) に即してのべたように、ポルトガルポルトガル語・ブラジルポルトガル語にも「説明の大過去形」はあると考えているが、フランス語・イタリア語とは性質がちがうので、ここでは問題としない。



**Era convinto** [11][大過] che la morte **fosse dovuta** [12][接大過] a una forma di botulismo e non **aveva neppure lontanamente sospettato** [9][大過] un avvelenamento da arsenico. Il pasto di quella sera **era consistito** [13][大過] in gamberi in scatola, insalata, torta, formaggio e pane. Disgraziatamente i gamberi **erano stati mangiati** [14][大過] tutti e la scatola buttata via. **Aveva interrogato** [15][大過] la domestica, Gladys Linch, ma la giovane **era** [16][半過] talmente sconvolta e **singhiozzava** [17][半過] così forte, che non **era riuscito** [18][大過] a cavarle niente di bocca.

« Questi, dunque, **erano** [20][半過] i fatti sui quali **dovevamo** [21][半過] indagare. Se Jones **aveva somministrato** [22][大過] arsenico alla moglie, non **poteva** [23][半過] averlo messo in nessuno dei cibi portati in tavola, dato che il pasto **era stato** [26][大過] condiviso da tutti e tre. C'**era** [半過、仏語に対応箇所なし] poi un altro dettaglio. Jones **era rientrato** [27][大過] da Birmingham proprio nel momento in cui **veniva** [28][半過] servito il pranzo e **perciò** [単過、仏語に対応箇所なし] non **aveva avuto** [29][大過] nessuna possibilità di alterare i cibi prima che questi **venissero** [接半過、仏語に対応箇所なし] serviti. »

[西] **Investigamos** [1][単過] con toda la delicadeza posible sus relaciones con la hija del médico, pero, aunque al parecer **hubo** [2][単過] una buena amistad entre ellos tiempo atrás, **habían roto** [3][大過] bruscamente unos dos meses antes y desde entonces todo **indicaba** [半過、仏語に対応箇所なし] que no se **habían vuelto** [4][大過] a ver. El propio médico, un anciano íntegro y de carácter bonachón, **quedó** [5][単過] aturdido por el resultado de la autopsia. Le **habían llamado** [大過、仏語に対応箇所なし] a eso de la medianoche para atender a los tres intoxicados. Al momento **comprendió** [6][単過] la gravedad del estado de la señora Jones y **envió** [7][単過] a buscar a su dispensario unas píldoras de opio para calmarle el dolor. No obstante, a pesar de sus esfuerzos, la señora **falleció** [8][単過], aunque ni por un momento **sospechó** [9][単過] que **se tratara** [10][接半過] de algo anormal. **Estaba** [11][半過] convencido de que su muerte **fue** [12][単過] debida a alguna forma de botulismo. La cena de aquella noche **había consistido** [13][大過] básicamente en langosta enlatada con ensalada, pastel y pan con queso. Por desgracia no **quedaron** [単過、仏語に対応箇所なし] restos de la langosta: **se la comieron** [14][単過] toda y **tiraron** [単過、仏語に対応箇所なし] la lata. **Interrogó** [15][単過、仏語に対応箇所なし] a la doncella, Gladys Linch, que **estaba** [16][半過] llorosa y muy agitada, y que a cada momento **eludía** [半過、仏語に対応箇所なし] de la cuestión, pero **declaró** [17][単過] una y otra vez que la lata no **estaba** [18][半過] hinchada y que la langosta le **había parecido** [19][大過] en magníficas condiciones.

» Estos **eran** [20][半過] los hechos en los que **debíamos** [21][半過] basarnos. Si Jones **había administrado** [22][大過] subrepticamente arsénico a su esposa, resultaba evidente que no **debió** [23][単過] de hacerlo con los alimentos que **tomaron** [25][単過] en la cena, puesto que las tres personas **comieron** [26][単過] lo mismo. Además **hay** [現、仏語に対応箇所なし] otra cosa: el propio Jones **había regresado** [27][大過] de Birmingham en el preciso momento en que la cena **era** [28][半過] servida, de modo que no **tuvo** [29][単過] oportunidad de manipular ninguno de los alimentos de antemano.

[葡] **Investigamos** [1][単過] com a maior sutileza possível os rumores da ligação dele com a filha do

médico. **Parecia** [2][半過] claro que **houvera** [大過、仏語に対応箇所なし] uma forte amizade entre eles em um dado momento, mas também **acontecera** [3][大過] um rompimento brusco dois meses antes e, aparentemente, não **havam se visto** [4][大過] desde então. O doutor, um homem de mais idade, um tipo direto e acima de qualquer suspeita, **ficara** [5] [大過] pasmo com o resultado da autópsia. Ele **havia sido** [大過、仏語に対応箇所なし] chamado em torno da meia-noite e **encontrara** [6][大過] os três passando mal. **Percebera** [大過、仏語に対応箇所なし] imediatamente o estado agravado da sra. Jones e **mandara** [7][大過] buscar algumas pílulas de ópio com seu dispensário para aliviar a dor. Apesar de todos os esforços, entretanto, ela não **resistira** [8][大過], mas sequer por um instante ele **suspeitou** [9][単過] que algo **poderia** [10][条現] estar errado. **Estava** [11][半過] convencido de que a morte dela **era** [12][半過] resultado de uma forma de botulismo. O jantar daquela noite **consistira** [13][大過] em lagosta enlatada com salada, pavê de creme e pão com queijo. Infelizmente, não **sobrara** [大過、仏語に対応箇所なし] nada da lagosta; **havia sido** [14][大過] comida por inteiro, e a lata **havia sido** [大過、仏語に対応箇所なし] jogada fora. Ele **havia interrogado** [15][大過] a jovem criada Gladys Linch. Ela **estava** [16][半過] bastante triste, muito chorosa e aflita, e ele **achara** [大過、仏語に対応箇所なし] difícil fazer com que ela **fosse** [接半過、仏語に対応箇所なし] mais objetiva, porém **declarara** [17][大過], repetidas vezes, que a lata não **se encontrava** [18][半過] deformada de modo algum, e que a lagosta, na opinião dela, **aparentava** [19][半過] estar em perfeitas condições.

"Esses **eram** [20][半過] os fatos de que **dispúnhamos** [21][半過] para proceder com a investigação. Se Jones **havia administrado** [22][大過] arsênico para a esposa de forma criminosa, **estava** [23] [半過] claro que não **poderia** [24] [条現] ter sido em nenhum dos itens consumidos no jantar, pois as três pessoas **compartilharam** [26] [単過] igualmente da mesma refeição. Além disso, outro ponto a ser considerado é [現、仏語に対応箇所なし] que o próprio Jones **havia chegado** [27] [大過] de Birmingham no momento em que o jantar **estava** [28] [半過] sendo levado à mesa, portanto ele não **tivera** [29] [大過] a oportunidade de alterar nenhum dos alimentos de antemão."

[伯] **Investigámos** [1][単過] tão discretamente quanto possível as suas relações com a filha do médico; mas, embora **fosse** [2][接半過] claro que em tempos **existira** [大過、仏語に対応箇所なし] uma forte amizade entre ambos, **assistira-se** [3][大過] a uma ruptura brusca dois meses antes e não **parecia** [4][半過] ter havido contacto desde então. O próprio médico, um cavalheiro idoso, de carácter íntegro e seguro, **ficou** [5][単過] aturdido com o resultado da autópsia. **Tinham** [半過、仏語に対応箇所なし]-no chamado por volta da meianoite e **encontrara** [6][大過] as três pessoas intoxicadas. **Apercebeu-se** [単過、仏語に対応箇所なし] de imediato do estado grave em que **se encontrava** [半過、仏語に対応箇所なし] Mrs. Jones e **mandou** [7][単過] buscar ao seu consultório comprimidos de ópio para lhe aliviar a dor. Contudo, e apesar de todos os seus esforços, ela **sucumbiu** [8][単過], mas nem por um momento ele **suspeitou** [9][単過] de que algo errado **se passara** [10][大過]. **Estava** [11][半過] convencido de que a morte da senhora **se ficara** [12][大過] a dever a uma forma de botulismo. Nessa noite, a ceia **consistira** [13][大過] em lagosta em

conserva e salada, bolo com creme e frutas embebido em vinho, pão e queijo. Infelizmente, não **restara** [大過、仏語に対応箇所なし] lagosta, **comeram** [14][大過]-na toda e a lata deitada ao lixo. Ele **interrogou** [15][単過] a jovem criada, Gladys Linch. Esta **estava** [16][半過] profundamente perturbada, muito chorosa e agitada, e ele **teve** [単過、仏語に対応箇所なし] dificuldade em fazê-la dizer o que **era** [半過、仏語に対応箇所なし] relevante, mas ela **declarou** [17][単過] vezes sem conta que a lata não **estava** [18][半過] deformada e a lagosta lhe **parecera** [19][大過] em ótimas condições.

«Estes **eram** [20][半過] os factos de que **dispúnhamos**[21][半過]. Se Jones **tinha administrado** [22][大過] arsénico à mulher de forma criminosa, **parecia** [23] [半過] claro que não o **poderia** [24] [条現] ter feito em qualquer dos alimentos ingeridos ao jantar, pois as três pessoas **havam partilhado** [26] [大過] a refeição. Ainda mais, o próprio Jones **regressara** [27][大過] de Birmingham no momento exacto em que o jantar **era** [28] [半過] servido e, por isso, não **teve** [29] [単過] oportunidade de alterar os alimentos previamente.»

[羅] **Am investigat** [1][複過] cât de discret **am putut** [複過、仏語に対応箇所なし] povestea cu fiica doctorului; deși **era** [半過、仏語に対応箇所なし] limpede că între cei doi **existase** [2][大過] o prietenie strânsă la un moment dat, **întrerupseseră** [3][大過] brusc orice legătură în urmă cu două luni și nu se mai **văzuseră** [4][大過] de atunci. Însuși doctorul, un bărbat în vârstă, foarte direct și încrezător, **a fost** [5][複過] uluit de rezultatul autopsiei. **Fusese** [大過、仏語に対応箇所なし] chemat cam pe la miezul nopții și îi **găsise** [6][大過] pe cei trei suferinzi. Își **dăduse** [大過、仏語に対応箇所なし] seama pe loc de starea gravă în care **se afla** [半過、仏語に対応箇所なし] doamna Jones și **trimisese** [7][大過] pe cineva la dispensarul lui **să aducă** [接現、仏語に対応箇所なし] niște pastile de opiu, ca **să-i mai aline** [接現、仏語に対応箇所なし] durerea. În ciuda eforturilor sale totuși, aceasta **murise** [8][大過], însă doctorul nu **suspectase** [9][大過] nici măcar o secundă că **ar fi fost** [10][条過] ceva în neregulă. **Era** [11][半過] convins că femeia **murise** [12][大過] din cauza unei forme de botulism. Cina din seara respectivă **fusese** [13][大過] alcătuită din homar la conservă, salată, tartă, pâine și brânză. Din nefericire, nu mai **rămăseseră** [大過、仏語に対応箇所なし] resturi din homar: **se mâncase** [14][大過] tot, iar conservele **fuseseră** [大過、仏語に対応箇所なし] aruncate. O **interogase** [15][大過] pe servitoarea cea tânără, Gladys Linch. Aceasta **era** [16][半過] teribil de afectată, **plângea** [半過、仏語に対応箇所なし], **se agita** [半過、仏語に対応箇所なし] și îi **fusese** [大過、仏語に対応箇所なし] greu **să o determine** [接現、仏語に対応箇所なし] **să se concentreze** [接現、仏語に対応箇所なし] asupra problemei, însă ea **susținea** [17][半過] încontinuu că nimeni nu **umblase** [18][大過] la acea conservă, iar homarul nu i se **păruse** [19][大過] a fi alterat.

Acestea **erau** [20][半過] datele problemei. Dacă Jones i-**ar fi administrat** [22][条過] soției sale arsenic cu intenția de a o ucide, **era** [23][半過] limpede că nu **ar fi pus** [24][条過] otrava în vreuna dintre mâncărurile servite la cină, deoarece toate cele trei persoane **consumaseră** [26][大過] aceleași feluri. Și încă ceva: Jones **se întorsese**[27] [大過] de la Birmingham tocmai în momentul în care mâncarea **era** [28] [半過] adusă la masă, astfel încât nu **ar fi avut** [29][条過] timp **să introducă** [接現、仏語に対応箇所なし]

otrava în mâncare dinainte.

可能なかぎりひそかに、スコットランド・ヤードはあの男と医者の娘とに関係があるという噂を解明しようとした [1]。しかし、ひところはたいへん親密だったけれど、2 か月前に突然仲たがいで [2]、それ以来会っていない [4] ということがわかった [2]。医者のほうは、かなりの年配で、疑いを一切もたないひとで、解剖の結果におどろいていた [5]。真夜中近くに呼び出されて来てみると、彼は3人が苦しんでいるところを見つけたのだった [6]。ジョーンズ夫人が重篤な状態だったので、苦しみをやわらげるために、アヘン入りの錠剤をとり診察所に使いをやったのだった [7]。しかしながら、努力のいかなく、その不幸なご婦人は亡くなったのだ [8]。しかし、医者はなんにせよ [10]、一瞬たりとも疑うことはなかった [9]。ボツリヌス菌による食中毒だ [12] と確信していた [11]。夕食はオマールえびの缶詰、サラダ、チーズ、パンとプリンという献立であった [13]。残念ながら、オマールえびは最後のひとかけまで食べつくしてしまっていたのだ [14]。そして缶詰の缶はごみとして捨てられていた。医者は若いメイドのグラディス・リンチを問い詰めたのだ [15] が、彼女が動転して [16]、とりみだし、泣き出すので、うまくいかなかった。彼女は、缶は変形してもいなかった [18] し、オマールえびもまったく問題ないようにみえた [19] と繰り返してばかりだったのだ [17]。

われわれが依拠するべき [21] 事実はそのようなものだった [20]。たとえジョーンズが妻に毒を盛ったのだとしても [22]、彼らが夕食に食べた [25] もののなかに入れた [24] のではないことは明らかだった [23]。というのも、彼らはおなじ料理をすべて分け合ったのだ [26] から。さらに、もうひとつの細かな点として、ジョーンズは夕食が食卓に運ばれている [28] ときにバーミンガムから帰宅したのだ [27] から、あらかじめ料理に手をくわえる可能性はなかったわけだ [29]。

(11) のフランス語版で下線をほどこした (和訳では二重下線をほどこした) 大過去形は、いずれも、主たる物語の筋、すなわち前景 (premier plan) を構成するものではない。むしろ、物語の筋からみると、その背景 (arrière-plan) をなす事情や理由を説明するために用いられている。より細かくいうと、[26]、[27] が理由を説明する用法、それ以外はすべて、事情を説明する用法であるといえる。

物語の背景をなす事情や理由は、たとえ元来は動的な事態であっても、ことがらが帯びる性質のように、状態的にとらえなおされる (日本語の訳文に多く用いた「のだ」文もその状態性に対応している)。この状態性が、大過去形が本来示している結果状態への入射的視点に合致していることから、大過去形の使用につながる。このアスペクトは、上記で「説明の半過去形」に関して言及した、「叙想的アスペクト」の一事例であるといえる。ある種の未完了相であり、事態の内部に視点をおき、そのまっただ中でとらえようとするアスペクトである。

大過去形は、複合時制という意味では (結果残存型の) 完了相を有するものの、助動詞が半過去形におかれているという点では、ある種の未完了相をも包蔵している。このことは、たとえば Touratier (1996) のつぎのような指摘からも理解できる。

« Quel que soit le contexte dans lequel il se trouve, le plus-que-parfait, dans la mesure où c'est un imparfait, ne peut que concerner, dans un récit, des procès qui n'appartiennent pas à la trame événementielle. »

おかれた文脈がどのようなものであろうとも、大過去形は、ある種の半過去形であるので、語りにおいて、できごとの筋に属していない事行にしか関わることができない。

(11) では、イタリア語版も上記フランス語版の「説明の大過去形」に対応する 10 個の定動詞のうち、半過去形を用いている [7] をのぞく 9 か所において、おなじく「説明の大過去形」を用いている。それに対して、スペイン語版では、10 か所中 8 か所で単純過去形を用いており、フランス語版とは対極に位置する特徴を示している。「説明」にあらわれる事態に関しても、単に継起するできごととしてとらえているということであり、叙想性があまりみられないといえる<sup>10</sup>。

## 5. 物語における連鎖的使用

フランス語は比較的、大過去形を好む言語である。このことは対訳コーパスによっても証明できる。4 節でも言及した山村科研コーパスで大過去形が主節・従属節で出現した数を比較すると、つぎのようになる。なお、以下ではイタリア語のデータは藤田 (2018)、スペイン語のデータは山村 (2018)、ブラジルポルトガル語のデータはギボ (2018)、ルーマニア語のデータは鈴木 (2018) から引用している。また、分類の様式を統一している。

<表 1 対訳コーパスにおける各言語での大過去形の出現数>

| 章  | フランス語 |     |     | イタリア語 |     |     | スペイン語 |     |     | ブラジルポルトガル語 |     |     | ルーマニア語 |     |     |
|----|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|-----|-----|------------|-----|-----|--------|-----|-----|
|    | 主節    | 従節  | 計   | 主節    | 従節  | 計   | 主節    | 従節  | 計   | 主節         | 従節  | 計   | 主節     | 従節  | 計   |
| 1  | 35    | 17  | 35  | 30    | 20  | 50  | 13    | 14  | 27  | 39         | 15  | 54  | 36     | 19  | 55  |
| 2  | 22    | 21  | 43  | 16    | 9   | 25  | 10    | 8   | 18  | 16         | 17  | 33  | 13     | 27  | 40  |
| 3  | 26    | 12  | 38  | 29    | 11  | 40  | 16    | 10  | 26  | 31         | 15  | 46  | 27     | 33  | 60  |
| 4  | 23    | 11  | 34  | 25    | 11  | 36  | 9     | 10  | 19  | 20         | 14  | 34  | 21     | 20  | 41  |
| 5  | 28    | 18  | 46  | 31    | 18  | 49  | 16    | 15  | 31  | 34         | 33  | 67  | 26     | 41  | 67  |
| 6  | 31    | 25  | 56  | 22    | 16  | 38  | 9     | 16  | 25  | 19         | 26  | 45  | 18     | 37  | 55  |
| 7  | 29    | 11  | 40  | 18    | 12  | 30  | 12    | 10  | 22  | 25         | 18  | 43  | 17     | 17  | 34  |
| 8  | 49    | 25  | 74  | 56    | 24  | 80  | 23    | 23  | 46  | 45         | 28  | 73  | 45     | 39  | 84  |
| 9  | 11    | 11  | 22  | 14    | 11  | 25  | 7     | 10  | 17  | 14         | 21  | 35  | 8      | 13  | 21  |
| 10 | 39    | 28  | 67  | 20    | 14  | 34  | 6     | 19  | 25  | 22         | 30  | 52  | 13     | 28  | 41  |
| 11 | 22    | 10  | 32  | 10    | 5   | 15  | 3     | 10  | 13  | 9          | 12  | 21  | 5      | 10  | 15  |
| 12 | 30    | 17  | 47  | 30    | 19  | 49  | 14    | 16  | 30  | 22         | 26  | 48  | 13     | 29  | 42  |
| 13 | 21    | 13  | 34  | 14    | 8   | 22  | 8     | 11  | 19  | 10         | 9   | 19  | 10     | 12  | 22  |
| 計  | 366   | 219 | 568 | 315   | 178 | 493 | 146   | 172 | 318 | 305        | 265 | 570 | 252    | 325 | 577 |

<sup>10</sup> フランス語とスペイン語のあいだのこの対照は、つとに山村 (2006) でも論じられているので、あわせて参照されたい。

<表 1>にみられるように、フランス語の大過去形は総数 568 例と、ルーマニア語 (577 例)、ブラジルポルトガル語 (570 例) について多い。しかし、ルーマニア語では大過去形が単純形 (たとえば *cântasem, cântaseși, cântase...* のように、助動詞を用いずに屈折だけで示す形) である点、ブラジルポルトガル語では単純形 (*cantara, cantaras, cantara...*)、複合形 (*haver* または *ter* を助動詞として用いる形) の 3 つの総数である点を考慮すると、いずれも単純比較はできない。のこる 3 つの言語のなかでは、フランス語の大過去形の頻度がもっとも高く、フランス語は相対的に大過去形を好む言語であることがわかる。

より具体的にいうと、フランス語では、語りのある部分で直説法大過去形が基調をなして、連鎖的に使われることがある。これはロマンス諸語のなかでもフランス語にきわだった特徴である。4 節でも言及した山村科研コーパスの原典であるクリスティの小説に即していうと、概して事件の発覚時、または捜査時を一段目の過去時とみなし、事件そのものが起きた時を二段目の過去時とみなすとき、二段目の過去時をいちいち忠実に大過去で述べる傾向がある。これに対し、スペイン語、ポルトガル語、ブラジルポルトガル語では、事件そのものの (二段目の) 過去時について語るときも、継起する出来事を順に語るかぎり、単純過去形を基調とする。一方、ルーマニア語では、おなじ条件のとき、(この言語では語りの基本的時制である) 複合過去形を基調とする。イタリア語はフランス語に次いで大過去形を使っているが、頻度はフランス語より明確に低い。

また、<表 1>で気づくもうひとつのことは、フランス語の大過去形は主節での生起が多いということである。フランス語版では、主節での生起の総数は 366 例と、5 言語で最多である。このこともまた、フランス語における大過去形の連鎖的使用に原因がもとめられる。

以下、フランス語とロマンス諸語との対比を、対訳の例で見てゆこう。ここでは、定動詞のうち、フランス語版で大過去形を用いているところに限って [1]、[2]、[3]... のように番号をつけている。

(12) 山村科研コーパス §.8 #2394~2402

[仏] Évidemment, j'**avais posé** [1] [大過] des questions aux pêcheurs, à tous ceux qui **avaient été** [2] [大過] témoins de l'accident. Une femme m'**avait raconté** [3] [大過] une histoire bizarre à laquelle je n'**avais pas prêté** [4] [大過] attention sur le coup, mais qui me revint plus tard. Elle prétendait qu'au moment où elle **avait hélé** [5] [大過] son amie, Mlle Durrant n'était pas en difficulté. D'après elle, l'autre l'**aurait rejointe** [条過] et lui **aurait délibérément maintenu** [条過] la tête sous l'eau. Comme je vous l'ai dit, je n'**avais pas fait** [6] [大過] très attention à cette histoire. C'était si extravagant et, vues de la plage, les choses pouvaient paraître si différentes ! Mlle Barton **avait peut-être tenté** [7] [大過] de faire perdre conscience à son amie en voyant que celle-ci allait les faire couler toutes les deux dans son affolement.

[伊] Io naturalmente **feci** [1] [単過] molte domande ai pescatori, chiesi cosa avessero visto, dato che **erano stati** [2] [大過] testimoni oculari. ([3] [4]の部分を訳していない) Una donna insistette nel dire che la

signorina Durrant non era in pericolo quando **aveva gridato**. [5] [大過] L'altra nuotatrice l'**aveva raggiunta** [大過、仏語に対応箇所なし] e l'**aveva tenuta** [大過、仏語に対応箇所なし] deliberatamente con la testa sott'acqua. Al momento non ci **feci** [6] [単過] caso. Era una storia così fantastica e le cose viste dalla riva sembravano così diverse! Poteva darsi che la signorina Barton **avesse cercato** [7] [接過] di stordire l'amica per farle perdere conoscenza ed evitare che per il panico le si avvinghiasse così stretta da rischiare di affogare tutte e due.

[西] Desde luego **interrogué** [1] [単過] a los pescadores sobre lo que habían visto. Ellos **eran** [2] [半過] testigos presenciales. Una de las mujeres me **contó** [2] [単過] una historia bastante curiosa a la que entonces no **presté** [3] [単過] atención, pero que recordé más tarde. Insistió en que la señorita Durrant no se encontraba en ningún apuro cuando **gritó** [5] [単過]. La otra nadadora **se había acercado** [大過、仏語に対応箇所なし] a ella, según esta mujer, y deliberadamente le **sumergió** [単過] la cabeza debajo del agua. Como les digo, no le **presté** [6] [単過] mucha atención. Era una historia fantástica y las cosas pueden verse de manera muy distinta desde la playa. Tal vez la señorita Barton **había tratado** [7] [大過] de dejarla inconsciente al ver que la otra, presa del pánico, se agarraba a ella con desesperación y que podían ahogarse las dos.

[葡] Claro que **fiz** [1] [単過] perguntas aos pescadores, e não só, em relação ao que tinham visto. **Eram** [2] [半過] testemunhas oculares. E uma mulher **contou** [3] [単過] uma história muito estranha. Na altura, não lhe **prestei** [4] [単過] grande atenção, mas lembrei-me dela mais tarde. Ela insistia em que Miss Durrant não estava em dificuldade quando **gritou** [5] [単過]. A outra **nadara** [大過、仏語に対応箇所なし] até junto dela e, segundo a mulher, **mantivera** [大過、仏語に対応箇所なし] deliberadamente a cabeça de Miss Durrant debaixo de água. Como disse, não lhe **prestei** [6] [単過] grande atenção. Era uma história tão insólita e as coisas parecem tão diferentes, vistas da praia... Miss Barton **podia ter tentado** [7] [法助動詞半過+完了不定法] que a sua amiga ficasse inconsciente, ao ver que esta, levada pelo pânico, provocaria o afogamento de ambas.

[伯] É claro que **indaguei** [1] [単過] os pescadores sobre o que tinham visto. **Havia** [2] [半過] testemunhas oculares. Uma mulher **contou** [3] [単過] uma história bem esquisita. Não **prestei** [4] [単過] atenção nela naquela hora, mas me voltou à memória mais tarde. Ela insistia, vejam bem, que a srta. Durrant não estava em dificuldades quando **gritara**. [5] [大過] A outra **nadou** até ela e, de acordo com essa mulher, deliberadamente **segurou** a cabeça da srta. Durrant embaixo d'água. Não **dei** [6] [単過] muita atenção, como eu disse. Era uma história tão fantástica, e essas coisas parecem tão diferentes vistas da areia. A srta. Barton **pode ter tentado** [7] [法助動詞現在+完了不定法] fazer sua amiga perder a consciência, percebendo que o desespero da outra em surto de pânico iria afogar as duas.

[羅] Firește că i-**am întrebat** [1] [複過] pe oameni despre pescar, despre ceea ce se întâmplase și despre altele. Ei **fuseseră** [2] [大過] martori, iar o femeie mi-**a povestit** [3] [複過] ceva ciudat. La momentul

respectiv, nu i-am acordat [4] [複過] atenție, dar ulterior mi-a venit în minte. Știți, ea a insistat că domnișoara Durrant era în regulă atunci când a strigat [5] [複過]. Cealaltă femeie a înnotat spre ea și, după spusele ei, a finut [複過]-o în mod voit cu capul sub apă pe domnișoara Durrant. După cum ziceam, n-am acordat [6] [複過] prea multă atenție acestei relatări. Era o poveste neverosimilă, deoarece lucrurile se pot vedea altfel de la mal. Se poate ca domnișoara Barton să fi încercat [7] [接過] să o facă pe prietena ei să-și piardă cunoștința, deoarece aceasta, fiind cuprinsă de panică, se agățase cu disperare de ea, punându-le viața în pericol amândurora.

もちろん、わたしは漁師たち、それも事故の目撃者だった [2] 全員に質問をしました [1]。ある女性が奇妙な話をわたしにしていて [3]、そのときはたいして注意を払わなかった [4] のですが、あとで気になりだしました。デュラン嬢が友だちを呼んだ [5] ときは、彼女はまだ苦しい状態ではありませんでした。その女性によると、友だちの女性がデュラン嬢といっしょになり、彼女の頭を故意に水のなかにおさえこんだそうです。さっきも言ったように、わたしはこの話に大して注意を払いませんでした [6]。それはあまりに突飛すぎる話ですし、海岸から沖をみると、事態はちがったふうに見えるのですから！ ひよっとすると、バートン嬢は、あまりにもものパニックのなかで、デュラン嬢がふたりともを溺れさせると思って、気を失わせようとした [7] のではないでしょうか。

(12) のフランス語版では、前節でみていた例とちがって、物語の前景が大過去形で語られ、それに対応する背景が半過去形 (Mlle Durrant n'était pas en difficulté, C'était si extravagant など) で語られていることが注目にあたいする。

この場合、他の言語では大過去形の使用は少ない。フランス語版で大過去形を用いているところに対応する7か所のうち、イタリア語版では2か所、スペイン語版、ポルトガルポルトガル語版、ルーマニア語版では1か所のみが大過去形になっており、ブラジルポルトガル語版ではいずれも大過去形になっていない。

フランス語では、遡行性 (régression) があるとき、大過去が語りの基調になる傾向がある。遡行性とは、(12) に即していうと、事件に関する探求の比較的初期の段階にさかのぼって言及する場合である。それに対して、[4] の直後の mais qui me revint plus tard という単純過去形によって示されているのが、相対的に新しい段階である。これらふたつの段階、すなわち相対的に古い段階と新しい段階のうち、古い段階の過去を大過去形で示しているのである。そして、その古い段階に属している複数のことがらを、いちいち忠実に、くりかえし大過去形であらわすのがフランス語の特徴である。

また、つぎの例のように、フランス語では、二段目の過去を (直説法) 大過去形で語ることの方が、叙法的な要因よりも優先する傾向がある。

(13) 山村科研コーパス §.9 #2850~2852

[仏] — Mais par quel moyen lui était parvenu [1] [大過] ce message ? Ce fut le point que je tentai



d'élucider, le seul espoir de résoudre l'énigme. On **avait dû** [2] [大過] approcher ou communiquer avec l'une de ces quatre personnes. Et elle **avait dû** [3] [大過] agir sans délai. Je savais qu'une fois l'ordre arrivé, l'exécution devait suivre aussitôt.

[伊] « Ma come **arrivò** [1] [単過] il messaggio? Ecco il punto che cercai di chiarire. Era l'unica speranza di risolvere il mistero. Una delle quattro persone **era stata avvicinata** [2a] [大過] o **aveva ricevuto** [2b] [大過] una comunicazione. Non ci **dovevano** [3] [半過] essere indugi... l'ordine **era stato eseguito** [大過、仏語に対応箇所なし] appena giunto, non avevo dubbi.

[西] — Pero ¿cómo **llegaría** [1] [条現] el mensaje? Ese es el punto que traté de aclarar como única esperanza de resolver el misterio. Una de esas cuatro personas **debió** [2] [単過] de ser abordada por alguien o comunicarse con ellos de alguna manera. La orden **debía** [3] [半過] ser ejecutada, lo sabía muy bien, tan pronto como fuera recibido el aviso.

[葡] — Mas como **chegaria** [1] [条現] a mensagem? Esse foi o aspecto que tentei esclarecer, a única esperança de resolver o mistério. Uma daquelas quatro pessoas **fora** [2] [単過] necessariamente abordada ou interpelada de alguma forma. Eu sabia que não **haveria** [3] [条現] adiamentos; mal **fosse** recebida, a ordem seria executada.

[伯] — Mas como **fora** [1] [単過] enviada a mensagem? Esse era o ponto que tentei elucidar, a única esperança de resolver meu problema. Uma daquelas quatro pessoas **deve** [2] [現] ter sido abordada, ou recebido um comunicado de alguma forma. Não **haveria** [3] [条現] nenhuma demora, disse eu sabia. Assim que o comando **fosse** recebido, seria executado.

[羅] – Dar cum **a ajuns** [1] [複過] mesajul? Asta am încercat să aflu, fiind singura speranță de a descoperi vinovatul. Unul dintre cei patru **trebuie să fi intrat** [2a] [法助動詞現在+接過] în legătură cu membrii organizației și **să fi comunicat** [2b] [接過] cumva cu aceștia. Nu **era** [3] [半過] timp de pierdut și, desigur, în momentul în care a primit ordinul, a trecut la fapte.

しかし、そのメッセージはどのようにして届いたのでしょうか [1]。それがわたしが明らかにしたい点でした。これこそ、謎を解決しうる唯一の希望です。4人のうち1人になんらかの形で連絡や通信があったにちがいません [2]。そして黒手団は時をおかずに行動したにちがいません [3]。命令がやってくるとすぐに、犯行が必ずなされるのです。

フランス語版の [1] は、直後の **Ce fut le point que je tentai d'élucider** という単純過去形が比較的新しい段階の過去時を示していることとの対比において、相対的に古い段階での過去時を大過去形によって示している。そして [2]、[3] では、推定のモダリティを準助動詞 **devoir** に担わせることによって、一貫して2段目の過去時を大過去形で示しつづけている。他の言語では条件法などの叙法を用いている (たとえばポルトガルポルトガル語版、ブラジルポルトガル語版の [3]) か、

たとえ準助動詞を用いている、くりかえし大過去形を用いていない (たとえばイタリア語版の [3]、スペイン語版の [2])。

つぎは大過去形の使用に関して、フランス語版と他言語との差異がもっとも大きい例である。イタリア語版の [4] をのぞいて、他の言語には大過去形はまったくみられない。やはり、遡行的にとらえられる一連のエピソードを、全体として大過去形を基調として語るフランス語の特性があらわれているといえる。

(14) 山村科研コーパス §.10 #3229~3232

[仏] Un soir qu'il rentrait chez lui à pied avec sa femme, celle-ci **était tombée** [1] [大過] dans le fleuve et lui, il **avait touché** [2] [大過] l'assurance ! Je me rappelais aussi deux autres personnes, qui se promènent toujours en liberté, dont l'une appartenait d'ailleurs à notre monde. Pendant les vacances d'été, il **était parti** [3] [大過] grimper sur les montagnes suisses avec sa femme. J'**avais conseillé** [4] [大過] à celle-ci de refuser de le suivre, et la pauvre petite ne **s'était pas fâchée** [5] [大過], comme elle **aurait pu** [条過], elle **n'avait fait** [6] [大過] qu'en rire. Il lui **avait paru** [7] [大過] très drôle qu'une bizarre vieille chose comme moi puisse tenir des propos pareils sur son Harry.

[伊] Una notte, mentre tornava a casa con sua moglie, lei **cadde** [1] [単過] nel fiume... e lui **ebbe** [2] [単過] il denaro dell' assicurazione! Conosco anche altra gente che l'ha fatta franca. Un tale **andò** [3] [単過] in vacanza in Svizzera con sua moglie. **Avevo avvisato** [4] [大過] la donna di non andare... e la poveretta non **si arrabiò** [5] [単過], **si limitò** [6] [単過] a ridere. Le **pareva** [7] [半過] buffo che una vecchia balorda come me potesse dire cose simili sul suo Harry.

[西] Una noche que volvía paseando con su esposa, ella **se cayó** [1] [単過] al río y él **cobró** [2] [単過] el dinero del seguro. También recuerdo a un par de personas que andan sueltas por ahí hasta la fecha. Por cierto, una de ellas pertenece a nuestra misma esfera social. **Se marchó** [3] [単過] a Suiza para hacer escalada durante el verano con su esposa. Yo le **aconsejé** [4] [単過] que no fuera. La pobre ni siquiera **se enfadó** [5] [単過] conmigo, **se limitó** [6] [単過] a reír. Le **parecía** [7] [半過] tan gracioso que una viejecita como yo le dijera semejantes cosas de su Harry.

[葡] Uma noite, quando ia a pé para casa com a mulher, esta **caiu** [1] [単過] ao rio... e ele **ficou** [2] [単過] com o dinheiro do seguro! E mais uma ou duas pessoas que ainda hoje andam por aí, livres como pássaros. Uma delas pertencente à nossa categoria social. **Foi** [3] [単過] escalar para a Suíça, numas férias de Verão, com a mulher. **Avisei** [4] [単過]-a para que não fosse, a pobrezinha nem **se zangou** [5] [単過] comigo, **limitou-se** [6] [単過] a rir. **Pareceu** [7] [単過]-lhe divertido que uma velhota excêntrica como eu pudesse afirmar tais coisas acerca do seu Henry.

[伯] Voltando para casa com a esposa certa noite, ela **caiu** [1] [単過] no rio; e ele **ficou** [2] [単過] com o dinheiro do seguro! E de pelo menos mais uma ou duas pessoas que estão andando por aí, livres, leves e

soltas até hoje; uma de fato da nossa mesma classe. **Foi [3]** [単過] para a Suíça passar férias de verão escalando com a esposa. **Avisei [4]** [単過]-a para não ir- a coitadinha não **ficou [5]** [単過] brava comigo como poderia ter ficado, ela apenas **riu [6]** [単過]. **Parecia [7]** [半過] tão engraçado que uma coisa velha e estranha como eu falasse assim do Harry dela.

[羅] Întorcându-se într-o seară acasă cu soția, aceasta **a căzut [1]** [複過] în râu, iar el **s-a ales [2]** [複過] cu banii de pe asigurare! Și mai sunt vreo două persoane care au scăpat basma curată – una dintre ele cu același statut social ca al nostru. **S-a dus [3]** [複過] în Elveția, în vacanța de vară, să urce pe munte cu soția. **Am avertizat [4]** [複過]-o să nu plece; scumpa de ea nici nu **s-a supărat [5]** [複過] pe mine, cum **ar fi trebuit [6]** [条過], doar a râs. I **s-a părut [7]** [複過] nostim ca o bătrânică ciudată ca mine să spună asemenea lucruri despre Harry al ei.

ある夜、彼が妻といっしょに歩いて帰宅するとき、妻が河に落ちて [1]、夫は保険金を受け取ったのです [2]！ いまもまかり通っている、別のふたりのことも思い出します。そのうちひとり、わたしたちの社会階層に属しているのです。夏の休暇のあいだ、そのひとは奥さんといっしょにスイスの山にのぼりに行きました [3]。わたしは奥さんについて行かないように忠告した [4] のですよ。彼女は怒ってもおかしくなかったところですが、怒りませんでした [5]。ただ笑っただけでした [6]。わたしのような変な老人が、[旦那さんの] ハリーについて変なことを言い出すなんて、とてもおかしく思った [7] のでしょう。

このくだりは、「夫が妻を殺した」という推理について話しているとき、「別の夫婦においても、同様の事件があった」という例を出しているところである。つまり、この部分は物語の本筋ではなく、さらに先立っている別のエピソードである。さらに先立っているということから、そのエピソードの部分に逆行性がみとめられるため、フランス語版では大過去形が連鎖的に使われているのである。

つぎがフランス語版でもっとも多く大過去形が連なって出てくる例である。この例では、ブラジルポルトガル語版でも大過去形がフランス語版に次いで多く、イタリア語版でも散見される。これまでの例となりが違うのであろうか。このことを説明しうるのが、4 節で言及した「説明の大過去形」という用法であると思われる。引用部分のはじめの文などからわかるように、ここでは事実をいまいちど振り返ってまとめようとしている。フランス語では、その逆行性だけで一連の大過去形を用いることが決まるのに対し、ブラジルポルトガル語、イタリア語では、「説明」という要素が加わっているときにはじめて大過去形を用いるようになるのではなかろうか。それゆえ、フランス語で突出して多く大過去形がみられると考えられるのである。

(15) 山村科研コーパス §.10 #3459~3486

[仏] « Maintenant, je pense que vous aimeriez connaître les faits eux-mêmes. Comme vous le savez, Mme Sanders **avait passé [1]** [大過] l'après-midi à jouer au bridge avec ses amis, les Mortimer. Elle les **avait quittés [2]** [大過] vers 18h 15. De chez eux à l'hôtel, il y avait environ un quart d'heure de marche, moins

si l'on pressait le pas. Elle **avait dû** [3] [大過] rentrer vers 18h 30, mais sans doute par la petite porte, et monter aussitôt dans sa chambre, car personne ne l'**avait vue** [4] [大過]. Puis elle **s'était changée** [5] [大過] — l'ensemble beige qu'elle portait dans l'après-midi fut retrouvé dans la penderie —, et elle s'apprêtait visiblement à ressortir quand le coup l'**avait frappée** [6] [大過]. Selon toute vraisemblance, elle n'**avait** même pas **vu** [7] [大過] son agresseur. J'ai cru comprendre qu'un sac de sable était une arme très efficace. Tout donnait à penser que l'agresseur était caché dans la chambre, peut-être dans la partie de la penderie qu'elle n'**avait pas ouverte** [8] [大過].

« Maintenant, retraçons les mouvements de M. Sanders. Il **était sorti** [9] [大過], comme je vous l'ai dit, aux alentours de 17h 30. Il **avait fait** [10] [大過] quelques achats dans deux boutiques et vers 18 heures, il **était entré** [11] [大過] au Grand Hôtel où il **avait rencontré** [12] [大過] deux amis, ceux-là mêmes avec lesquels il **était revenu** [13] [大過] plus tard à la station thermale. Ils **avaient joué** [14a] [大過] au billard et **bu** [14b] [大過], j'imagine, un certain nombre de whiskies-soda. Ces deux hommes — Hitchcock et Spender — ne l'**avaient pas quitté** [15] [大過] depuis 18 heures. Ils **étaient rentrés** [16] [大過] ensemble et il ne les **avait abandonnés** [17] [大過] que pour nous aborder, Mlle Trollope et moi. Ceci **s'était passé** [18] [大過], comme je vous l'ai dit, vers 18h 45 — heure à laquelle sa femme **devait déjà être morte** [法助動詞半過去+完了不定法].

« Je dois dire que j'ai moi-même parlé à ses deux amis. Ils ne me plurent guère. Ils n'étaient ni sympathiques ni distingués, mais je fus certaine d'une chose : ils disaient l'absolue vérité quand ils affirmaient que Sanders **était resté** [19] [大過] tout le temps en leur compagnie.

« Un autre petit incident vint à notre connaissance. Pendant la partie de bridge, on **avait appelé** [20] [大過] Mme Sanders au téléphone. Un certain M. Littleworth désirait lui parler. Elle **était revenue** [21] [大過] animée et ravie de quelque chose, et **avait même commis** [22] [大過] une ou deux fautes graves. Puis elle **était partie** [23] [大過] plus tôt que prévu.

« On demanda à Sanders s'il connaissait un ami de sa femme du nom de Littleworth, mais il déclara qu'il n'en **avait jamais entendu** [24] [大過] parler. Ce qui me parut confirmé par l'attitude de sa femme qui, elle non plus, n'**avait pas eu** [25] [大過] l'air de connaître ce nom. Toutefois, comme elle **était revenue** [26] [大過] à la table de jeu souriante et rougissante, on pouvait en déduire que la personne n'**avait pas donné** [27] [大過] son vrai nom, ce qui était assez louche en soi, non ?

[伊] « Adesso, immagino, vorrete sapere come andarono le cose. La signora Sanders, come vi ho detto, **aveva passato** [1] [大過] il pomeriggio giocando a bridge con amici, i Mortimer. Li **lasciò** [2] [單過] verso le sei e un quarto. Dalla casa dei suoi amici all'albergo c'era un quarto d'ora di strada... a meno di non correre. **Doveva essere arrivata** [3] [法助動詞半過去+完了不定法] verso le sei e mezzo. Nessuno la **vide** [4] [單過] entrare, e ciò significa che dev'essere entrata dalla porta laterale e salita direttamente in camera. Là **si è cambiata** [5] [複過]... il cappotto e la gonna che indossava durante il bridge erano appesi nell'armadio.... e stava preparandosi con ogni evidenza a uscire di nuovo, quando a un tratto **è stata colpita**

[6] [複過]. ([7] の部分を訳していない) L'aggressore **era** probabilmente già **nascosto** [8] [大過] nella stanza, forse in uno dei grandi armadi... quello che lei non **aprì** [9] [單過].

« Adesso veniamo ai movimenti del signor Sanders. Come ho detto, **uscì** [10] [單過] alle cinque e mezzo... o poco dopo. **Fece** [11] [單過] qualche acquisto in un paio di negozi e verso le sei **andò** [12] [單過] al Grand Spa Hotel, dove **trovò** [13] [單過] due amici... gli stessi con cui più tardi **rientrò** [14] [單過] all'albergo Hydro. **Giocarono** [15a] [單過] a biliardo e, presumo, **bevettero** [15b] [單過] vari whisky e soda. I due uomini... si chiamavano Hitchcock e Spender... **restarono** [16] [單過] sempre con lui dalle sei in avanti. Lo **accompagnarono** [17] [單過] all'Hydro e lo **lasciarono** [18] [單過] soltanto quando venne da me e dalla signorina Trollope. **Erano** [19] [單過] ormai le sette meno un quarto, e a quell'ora sua moglie **doveva essere già morta** [法助動詞半過去+完了不定法].

« Devo dirvi che riflettei a lungo sui suoi due amici. Non mi piacevano. Non avevano l'aria di gentiluomini, ma di una cosa ero sicura: dicevano la verità quando sostenevano che Sanders **era sempre stato** [20] [大過] in loro compagnia.

« Venimmo a conoscenza di un particolare. Durante la partita di bridge, la signora Sanders **era stata** [21] [大過] chiamata al telefono. Un certo signor Littleworth voleva parlarle . Lei **sembrava** [22] [半過] contenta ed eccitata per qualcosa... e durante il gioco **commise** [23] [單過] un paio di gravi errori. Se ne **andò** [24] [單過] più presto di quanto gli altri si aspettavano.

« Fu chiesto al signor Sanders se gli risultava che Littleworth fosse un amico di sua moglie, ma egli dichiarò di **non conoscere** [25] [不] nessuno con questo nome. Secondo Sanders neppure sua moglie **conosceva** [26] [半過] Littleworth. Tuttavia dopo la telefonata lei **sorrideva** [27] [半過] ed era tutta rossa, e così può darsi che chiunque fosse l'interlocutore non **abbia dato** [28][接過] il suo vero nome. Una circostanza sospetta, non è vero?

[西] » Ahora supongo que les gustará saber lo que ocurrió en realidad. La señora Sanders, como ya saben, **pasó** [1] [單過] la tarde jugando al bridge con unos amigos, los Mortimer, a los que **dejó** [2] [單過] a eso de las seis y cuarto. De la casa de sus amigos al balneario había un cuarto de hora paseando y algo menos a buen paso. **Debió** [3] [單過] de regresar a las seis y media. Nadie la **vio** [4] [單過] entrar, de modo que debió de hacerlo por la puerta lateral para subir directamente a su habitación. Allí **se cambió** [5] [單過] (el traje chaqueta que llevaba para jugar al bridge estaba colgado en el armario) y se disponía a salir otra vez cuando la **golpearon** [6] [單過]. Es muy posible que no **llegara** [7] [接半過] a enterarse de quién lo hizo. Tengo entendido que un calcetín relleno de arena es un arma eficiente. Eso hace pensar que su agresor debía de estar escondido en la habitación, posiblemente en uno de los armarios, el que no **abrió** [8] [單過].

» Ahora pasemos a relatar los movimientos del señor Sanders. **Salió** [9] [單過], como ya he dicho, a eso de las cinco y media, o un poco después. **Realizó** [10] [單過] algunas compras en un par de tiendas y, cerca de las seis, **entró** [11] [單過] en el hotel Grand Spa, donde **se reunió** [12] [單過] con dos amigos, los mismos que más tarde le **acompañaron** [13] [單過] al balneario. **Estuvieron** [14a] [單過] jugando al billar

y deduzco que también **bebieron** [14b] [單過] bastante whisky. Esos dos hombres (se llamaban Hitchcock y Spender) **estuvieron** [15] [單過] con él desde las seis en adelante. **Vinieron** [16] [單過] caminando hasta el balneario y solo **se separó** [17] [單過] de ellos para acercarse a hablar conmigo y la señorita Trollope, y eso, como les dije, **fue** [18] [單過] cerca de las siete menos cuarto, hora en que su esposa ya debía de estar muerta.

» Debo decirles que yo misma hablé con esos dos amigos y no me gustaron. No eran ni simpáticos ni caballeros, pero tuve la certeza de que decían absolutamente la verdad al declarar que Sanders **había pasado** [19] [大過] (間接話法補部) todo el tiempo en su compañía .

» Luego se averiguó otra cosa. Al parecer, durante la partida de bridge, **llamaron** [20] [單過] por teléfono a la señora Sanders. Un tal señor Littleworth deseaba hablar con ella. **Se mostró** [21] [單過] excitada y satisfecha por algo. Casualmente, **cometió** [22] [單過] un par de errores importantes y **se dejó** [23] [單過] la partida antes de lo previsto.

» Le **preguntaron** [單過] al señor Sanders si sabía si aquel señor Littleworth era una de las amistades de su esposa, mas declaró que nunca **había oído** [24] [大過] (間接話法補部) aquel nombre. A mí me pareció, por la actitud de su esposa, que ella tampoco **debía** [25] [半過] de saber gran cosa de aquel Littleworth. Sin embargo, **volvió** [26] [單過] del teléfono sonriente y ruborizada, lo cual hace suponer que quienquiera que fuese no **dio** [27] [單過] su verdadero nombre y eso parece sospechoso, ¿no creen?

[葡] « E agora, suponho, deverem querer ouvir os verdadeiros factos. Mrs. Sanders, como sabem, **passou** [1] [單過] a tarde a jogar bridge com alguns amigos, os Mortimer. **Deixou** [2] [單過]-os por volta das seis e um quarto. Da casa dos amigos às termas era cerca de um quarto de hora a pé... menos, se ela estugasse o passo. **Deve ter chegado** [3] [法助動詞現在+完了不定法] às seis e meia, aproximadamente. Ninguém a **viu** [4] [單過] entrar, portanto, deve ter usado a porta lateral e subido directamente para o quarto. Uma vez ali, **mudou** [5] [單過] de roupa (o fato castanho-claro de saia e casaco que envergara durante o jogo de bridge estava pendurado no guarda-fato) e preparava-se evidentemente para sair de novo quando o golpe **foi** [6] [單過] desferido. É muito possível que ela nem **tenha visto** [7] [接過] o agressor. O saco de areia é uma arma bastante eficaz. Tudo leva a crer que os atacantes estavam escondidos no quarto, provavelmente num dos grandes armários, aquele que ela não **abriu** [8] [單過].

« Consideremos agora os movimentos de Mr. Sanders. **Saiu** [9] [單過], como já disse, por volta das cinco e meia, ou um pouco mais tarde. **Fez** [10] [單過] compras em algumas lojas e, cerca das seis horas, **entrou** [11] [單過] no Grand Spa Motel, onde **se encontrou** [12] [單過] com dois amigos, os mesmos com quem **regressou** [13] [單過] mais tarde às termas. **Jogaram** [14a] [單過] bilhar e, suponho, **tomaram** [14b] [單過] um número razoável de whiskies com soda. Estes dois homens (chamados Hitchcock e Spender) **estiveram** [15] [單過] sempre com ele, a partir das seis horas. **Acompanharam** [16] [單過]-no às termas e ele só os **deixou** [17] [單過] para se dirigir a mim e a Miss Trollope. Isto **passou-se** [18] [單過], como vos disse, por volta das sete menos um quarto, altura em que a sua mulher tinha forçosamente de se

encontrar já morta.

« Tenho de dizer-vos que falei eu mesma com estes dois amigos de Sanders. Não gostei deles. Não eram homens afáveis nem corteses, mas fiquei convencida de uma coisa: falavam verdade quando afirmavam que Sanders **estivera** [19] [大過] sempre na sua companhia.

« Averiguou-se um outro pormenor. Parecia que, enquanto decorria a partida de bridge, Mrs. Sanders **fora** [20] [大過] chamada ao telefone. Um tal Mr. Littleworth desejava falar-lhe. Depois disso, ela **pareceu** [21] [單過] simultaneamente entusiasmada e satisfeita com alguma coisa e **cometeu** [22] [單過] um ou dois erros graves. **Saiu** [23] [單過] bastante mais cedo do que os amigos tinham esperado.

« Perguntou-se a Mr. Sanders se Littleworth era o nome de algum amigo da mulher, mas ele afirmou que nunca **ouvira** [24] [大過] tal nome ser mencionado. E isso pareceu-me confirmado pela atitude da mulher: também ela **mostrara** [25] [大過] não conhecer o nome Littleworth. Apesar disso, **regressara** [26] [大過] do telefonema sorridente e corada, o que leva a crer que, fosse quem fosse, não **forneceu** [27] [單過] o nome correcto, e isso, em si mesmo, é suspeito, não é verdade?

[伯] "Bem, imagino que vocês gostariam de saber quais eram os fatos em si. A sra. Sanders, como sabem, **passara** [1] [大過] a tarde jogando bridge com alguns amigos, os Mortimer. Ela os **deixara** [2] [大過] em torno das seis e quinze. Da casa daqueles amigos até a Hidro era uma caminhada de mais ou menos uns quinze minutos; talvez menos, se a pessoa estivesse apressada. **Deve ter chegado** [3] [法助動詞現在+完了不定法], então, em torno das seis e meia. Ninguém a **viu** [4] [單過] chegar, portanto deve ter entrado pela porta lateral e subido para o quarto. Lá, **trocara** [5] [大過] de roupa (o casaco e a saia marrom-acinzentados que usara para o jogo de bridge estavam pendurados dentro do armário) e estava, é claro, se preparando para sair de novo quando **fora** [6] [大過] golpeada. Muito possivelmente, dizem, sequer **viu** [7] [單過] quem a acertou. O saco de areia, no meu entendimento, é uma arma muito eficiente. E tudo indica que os agressores estavam escondidos no quarto, talvez em um dos guarda-roupas grandes; aquele que ela não **abrira** [8] [大過].

"Agora, os movimentos do sr. Sandres. **Saíra** [9] [大過], como eu havia dito, em torno das cinco e meia ou pouco depois disso. **Fez** [10] [單過] compras em alguns estabelecimentos e, em torno das seis da tarde, **entrou** [11] [單過] no Grand Spa Hotel, onde **encontrou** [12] [單過] dois amigos—com os quais retornaria mais tarde para a Hidro. **Jogaram** [14a] [單過] bilhar e, imagino, **tomaram** [14b] [單過] juntos alguns vários uísques com soda. Esses dois homens (Hitchcock e Spender eram os nomes deles) **estiveram** [15] [單過] de fato com ele o tempo inteiro a partir das seis da tarde. **Foram** [16] [單過] a pé com ele para a Hidro, e **se separaram** [17] [單過] apenas quando ele encontrou a mim e a srta. Trollope. Aquilo, como relatei, **fora** [18] [大過] em torno das quinze para as sete— momento em que sua esposa já deveria estar morta.

"Devo dizer que falei eu mesma com esses dois amigos dele. Não gostei dos dois. Não eram homens nem agradáveis nem cavalheirescos, mas fiquei bem certa de uma coisa: de que falavam a mais absoluta

verdade quando diziam que Sanders **estivera** [19] [大過] (間接話法補部) o tempo inteiro na companhia deles.

"Surge apenas um outro pequeno detalhe. Parece que, durante a partida de bridge, a sra. Sanders **fora** [20][大過] chamada ao telefone. Alguém chamado sr. Littleworth queria falar com ela. Ela **parecera** [21] [大過] ao mesmo tempo animada e satisfeita com alguma coisa — e acidentalmente, **cometeu** [22] [單過] um ou dois erros graves. **Partiu** [23] [單過] bem mais cedo do que esperavam.

"Perguntaram ao sr. Sanders se ele conhecia o nome Littleworth como algum amigo de sua esposa, mas ele declarou que nunca **havia ouvido** [24] [大過] falar de ninguém com aquele nome. E para mim isso é reforçado pela atitude da esposa; ela também não **parecia** [25] [半過] reconhecer o nome Littleworth. No entanto, **retornara** [26] [大過] do telefonema ruborizada e sorrindo, então parece que quem quer que tenha sido não **dissera** [27] [大過] seu nome verdadeiro e isso, por si só, tem um aspecto suspeito, não tem?

[羅] Și-acum, cred că ați dori să auziți cum s-au petrecut, de fapt, lucrurile. După cum prea bine știți, doamna Sanders **și-a petrecut** [1] [複過] după-amiaza jucând bridge cu niște prieteni, soții Mortimer. **A plecat** [2] [複過] de la ei pe la vreo șase și un sfert. De la casa prietenilor până la stațiune era un drum de vreun sfert de oră, chiar mai puțin, dacă te grăbeai. **Trebuie să fi sosit** [3] [法助動詞現在+接過] pe la șase și jumătate. Nimeni **n-a văzut** [4] [複過]-o venind, așa că, probabil, a intrat pe ușa laterală și a urcat în grabă în camera ei. Acolo **s-a schimbat** [5] [複過] (haina de blană și fusta pe care le purtase la partida de bridge atârnau în dulap) și se pregătea, în mod evident, să iasă din nou, când **a fost lovită** [6] [複過]. Poliția susține că e foarte probabil ca ea să nu **fi știut** [7] [接過] cine a lovit-o. Din câte am înțeles, ciorapul cu nisip este o armă extrem de eficientă. Asta lasă impresia că atacatorul era ascuns în cameră, probabil în acea parte a garderobei pe care ea nu **a deschis** [8] [複過] -o.

În ceea ce îl privește pe domnul Sanders, acesta **a ieșit** [9] [複過], după cum v-am spus, pe la cinci și jumătate sau puțin mai târziu. **A intrat** [10] [複過] în câteva magazine să facă niște cumpărături și la ora șase **s-a dus** [11] [複過] la Grand Spa Hotel, unde **s-a întâlnit** [12] [複過] cu doi prieteni — cei cu care **s-a întors** [13] [複過] mai târziu. **Au jucat** [14] [複過] biliard și bănuiesc că au băut multe pahare de whisky cu gheață. Acești doi bărbați (Hitchcock și Spender) **au fost** [15] [複過] tot timpul cu el, începând cu ora șase. **L-au însoțit** [16] [複過] până acasă, iar Sanders **i-a părăsit** [17] [複過] numai atunci când a vorbit cu mine și cu domnișoara Trollope. Asta, după cum vă povesteam, **se întâmpla** [18] [半過] pe la șapte fără un sfert, oră la care soția lui trebuie să fi fost deja moartă.

Trebuie să vă spun că eu însămi am vorbit cu cei doi prieteni ai lui. Nu mi-au plăcut. Nu erau nici agreabili, nici educați, dar eram sigură de un singur lucru, că spuneau adevărul când insistau că Sanders **fusese** [19] [大過] (間接話法補部) tot timpul cu ei.

A mai apărut încă un amănunt. Se pare că în timpul partidei de bridge doamna Sanders **a fost** [20] [複過] chemată la telefon. Un domn Littleworth voia să-i vorbească. **Părea** [21] [半過] să fie încântată și fericită în legătură cu ceva anume și, din neatenție, **a făcut** [22] [複過] una sau două mari greșeli. **A plecat** [23] [複



過] chiar mai devreme decât se așteptaseră prietenii ei.

Domnul Sanders a fost întrebat dacă îi era cunoscut numele de Littleworth ca fiind al vreunui prieten de-al soției lui, dar acesta a declarat că nu **auzise** [24] [大過] (間接話法補部) niciodată de un asemenea nume. Din câte mi-am putut da eu seama, nici soția lui nu **lăsase** [25] [大過] impresia că ar cunoaște pe cineva cu acest nume. Mai mult, **s-a întors** [26] [複過] de la telefon roșie la față și zâmbind, așa încât oricine o fi fost nu **s-a prezentat** [27] [複過] cu numele real, ceea ce trezește suspiciunea, nu credeți?

さて、みなさんは事実そのものを知りたいとお思いでしょう。ご存じのように、サンダース夫人は友だちのモーティマー夫妻といっしょにブリッジをして午後を過ぎしました [1]。彼女は彼らと 18 時 15 分ころに別れました [2]。彼らの家から水療院までは歩いて 15 分くらいで、もし早歩きするならもっと短くてすみませう。彼女は 18 時 30 分ころに帰りついたはずですよ [3]。おそらく小さな扉から入り、ただしに自室に上がったのでしょう。というのも、だれも彼女を見かけなかった [4] からです。そして彼女は着替えをして [5] — 午後に彼女が来ていたベージュ色のアンサンブルが洋服箆筒につるしてありました —、たぶんもういちど出かけようとしていたところを、突然襲われたのです [6]。おそらく彼女は犯人を見てさえいない [7] でしょう。砂袋がとても効果的な凶器になったのだと思いました。そうしたことから考えると、犯人は部屋のなかに隠れていて、彼女が開けなかった [8] 洋服箆筒のなかにいたのかもしれない。

こんどは、サンダース氏の動きをたどってみましょう。さきほどお話したように、彼は 17 時 30 分ころ外出しました [9]。2 軒の店で買い物をして [10]、18 時ころグラン・ホテルに入り [11]、そこでふたりの友だちと会いました [12]。ふたりはあとで水療院までいっしょに戻ってきます [13]。彼らはビリヤードをして [14 a]、酒を飲んだ [14 b] と思います。かなりの量のウィスキー・ソーダでした。このふたり — ヒッチコックとスペンダーといいますが — 18 時以来サンダース氏といっしょにいました [15]。彼らはいっしょに帰ってきたのですから [16]。そして、ふたりと別れると [17]、サンダース氏はわたしたち、つまりトロトープ嬢とわたしのところへやってきました。それが 18 時 45 分ころでした [18]。そのときにはすでに、彼の妻は死んでいたのです。

わたし自身が彼のふたりの友だちと話したことも言わないといけません。わたしは彼らのことを好きになれませんでした。好感がもてず、品格ありませんでしたが、ひとつのことだけは確信しました。彼らが言った、ずっとサンダース氏といっしょにいつづけた [19] ということは、まったくの真実だったと。

もうひとつ、わたしたちの知りえた事実があります。ブリッジをしているあいだ、サンダース夫人に電話がかかってきた [20] のです。リトルウォース氏とかいう男が彼女と話したいと言っていました。夫人は電話で話してもどってきた [21] とき、いきいきとして、なにかうっとりしているようでした。それでひとつかふたつ、[ブリッジで] 大きなミスをしてしまいました [22]。そして彼女は予定より早く帰っていきました [23]。

サンダース氏に、奥さんの友だちでリトルウォースという名まえのひとを知っているかとたずねたところ、一度もきいたことがない [24] とこたえました。夫人の態度もそのことを裏づけているように思えました。夫人も、その名まえを知っているようではなかった [25] のです。しかし、彼女がゲームのテーブルにもどってきた [26] ときには、ほほえんで顔を赤くしていたので、問題の人物は本名を名乗らなかった [27]

のではないかと考えられます。これ自体ずいぶん疑わしいことではないでしょうか。

(15) のフランス語版では、最初の *Maintenant, je pense que vous aimeriez connaître les faits eux-mêmes* や、2 段落めのはじめの *Maintenant, retraçons les mouvements de M. Sanders* があることにより、事件をふりかえって、まとめをすることが告げられている。「ふりかえり」によって回顧されるのは、事実そのもの (例文中のことばでいえば、*les faits eux-mêmes*) をたどることであるので、それよりあとの捜査時 (たとえば、第 4 段落の冒頭の *Un autre petit incident vint à notre connaissance* という単純過去形でさししめされる時) を 1 段めの過去時、すなわち相対的に新しい過去時とみなしたときの、より古い過去時であるということになり、大過去形が用いられる。しかも、おなじ段階にある過去に継起したできごとを、フランス語ではいちいち大過去をくりかえし用いて示すことになり、大過去が局所的に語りの基調になる。

大過去形が語りの基調になっているということは、前景に属する継起するできごとがすべて大過去形によって語られるということであり、また、その前景に対する背景が半過去形によって語られるということにもなる。[8] のすこし前の *l'agresseur était caché*、2 段落め最後の *sa femme devait déjà être morte*、[21] の直後の *Un certain M. Littleworth désirait lui parler* などがこれにあたる。

ここで、(15) のフランス語版とほかの言語を比較してみよう。フランス語版では大過去形が 27 か所にわたって用いられているのに対して、イタリア語版では大過去形の使用は 4 か所、スペイン語版では 2 か所、ポルトガルポルトガル語版では 5 か所、ブラジルポルトガル語版では 13 か所、ルーマニア語版では 2 か所にすぎない。

(15) のフランス語版では、たとえば [16] は理由をあらわす「説明の大過去形」であり、叙想性が感じられるが、イタリア語版、スペイン語版、ポルトガルポルトガル語版、ブラジルポルトガル語版ではいずれも単純過去形、ルーマニア語版では複合過去形が用いられている (いずれも物語全般で基調となる時制である)。[17] もフランス語版では事情説明の大過去形であるが、他の言語ではそれぞれ [16] のときと同じ時制が用いられており、大過去形は皆無である。

スペイン語版とルーマニア語版で大過去形が用いられている 2 か所は、いずれも間接話法の補部に生起しており、時制の照応が契機となる使用であると考えられる。

イタリア語版もフランス語版と同様、説明の大過去形が用いられているところもある ([20]、[21] など) が、その頻度はフランス語版よりはるかに低い。

ポルトガルポルトガル語版の大過去形は 5 例であるが、そのうち 2 例は間接話法の補部、1 例は *Parecia que* 「～と思われた」の補部に用いられており、やはり時制の照応が関係している。

あきらかに他の言語より多く大過去形を用いているのはブラジルポルトガル語版のみであるが、これには 4 節でのべた「説明の大過去形」のブラジルポルトガル語に独特の用法が作用していると思われる。たとえば [1]、[2]、[20]、[21] などは「説明の大過去形」とみられる。しかし、ブラジルポルトガル語の説明の大過去形は、フランス語のそれとちがって、「重大な事実」とみなされる事行に適用されるものである。したがって、フランス語のように一連の継起する事実をことごとく大過去形でのべるわけではない。このことから、用法名としてはおなじ「説明の大過去形」

でありながらも、フランス語版より大過去形の使用頻度が低いことが説明できる。

このように、フランス語において、物語のなかで大過去形が連鎖的に出現し、語りの基調をなすという現象は、Touratier (1996, p.155) が「カッコ書き (parenthèse)」、Barceló et Bres (2006, pp.90 sq.) が「フラッシュバック (analepse)」と呼んでいるように、テキストのなかに入れ子構造のように組みこまれた、かぎられた範囲内のみで用いられるということが重要である。物語の全体にわたって大過去形が基調になるということとはありえない。図説すると、つぎようになる。

<図 2：大過去形の連鎖的用法と入れ子構造>



<図 2>では、PS が単純過去形、PQP が大過去形を示している。フラッシュバックの部分は、前後で語られている主たる物語からは遡行的であるととらえられる一連のエピソードからなっており、局所的に大過去形が基調になっている。主たる物語は単純過去形が連なることで前景を進行させているのに対し、フラッシュバックの場面では、大過去形が連なることで前景を進行させている。

このことをさらに例証するため、これまでの例とはちがった小説から例文を引いてみよう。これまでの例にならって、大過去形の生起に [1]、[2]、[3]... の通し番号をつけている。

(16) Une fois qu'ils **avaient commencé** [1] un livre, les parents le *finissaient* toujours, même s'il *s'avérait* très vite être ennuyeux et si sa lecture leur *prenait* des mois. Ainsi en *était-il* du livre d'Édouard Herriot, *La Forêt normande*, qui ne *parlait* de personne, mais seulement du début jusqu'à la fin de la forêt normande.

Les parents, *c'étaient* des étrangers qui **étaient arrivés** [2] à Vitry, depuis près de vingt ans, plus de vingt ans peut-être. Ils **s'étaient connus** [3 a] là, **mariés** [3 b] là, à Vitry. De cartes de séjour en cartes de séjour, ils *étaient* encore là à titre provisoire. Depuis, oui, très longtemps. Ils *étaient* des chômeurs, ces gens. Personne **n'avait** jamais **voulu** [4] les employer, parce qu'ils connaissaient mal leurs propres origines et qu'ils *n'avaient* pas de spécialité. Eux, ils **n'avaient** jamais **insisté** [5]. C'est à Vitry aussi que leurs enfants **étaient nés** [6], y compris l'aîné qui **était mort** [7]. Grâce à ces enfants ils **avaient été** [8] logés. Dès le deuxième on leur **avait attribué** [9] une maison dont on **avait arrêté** [10] la destruction, en attendant de les loger dans un HLM. Mais ce HLM **n'avait** jamais **été** [11] construit et ils **étaient restés** [12] dans cette maison, deux pièces, chambre et cuisine, jusqu'à ce que – un enfant arrivant chaque année – la commune ait fait construire un dortoir en matériau léger séparé de la cuisine par un couloir. Dans ce couloir *dormaient* Jeanne et Ernesto, les aînés des sept enfants. Dans le dortoir les cinq autres. Le Secours Catholique **avait**

**fait** [13] don de poêles à mazout en bon état.

Le problème de la scolarisation des enfants ne **s'était** jamais sérieusement **posé** [14] ni aux employés de la mairie ni aux enfants ni aux parents. Une fois ceux-ci **avaient** bien **demandé** [15] qu'un instituteur se déplace jusqu'à eux pour enseigner à leurs enfants mais on **avait dit** [16] : quelle prétention et puis quoi encore. Voilà, ça **s'était passé** [17] comme ça. Dans tous les rapports de la mairie les concernant il **était fait** [18] état de la mauvaise volonté de ces gens et de l'obstination étrange qu'ils *mettaient* à s'y tenir.

Ces gens *lisaient* donc des livres qu'ils *trouvaient* soit dans les trains soit aux étals des librairies d'occasion, soit près des poubelles. (Marguerite Duras, *La pluie d'été*, pp.10-12)

両親はひとたび本を読みはじめたら [1]、たとえすぐにつまらないということがわかって、たとえ何か月かかっても、かならず最後まで読んでいた。エドゥアール・エリオの『ノルマンディーの森』についてもそうだった。『ノルマンディーの森』はだれのことも語らず、はじめから終わりまでノルマンディーの森について語るものであった。

両親は外国人で、およそ 20 年前、ひょっとするとそれ以上前に、ヴィトリーに来ていた [2]。彼らはそこ、ヴィトリーで出会い [3 a]、結婚した [3 b]。滞在許可証の更新をくりかえし、彼らはいいかわらず仮の状態でそこにいた。そう、とても長いあいだ。彼らは失業者だった。だれも彼らを雇おうとはしなかった [4]。彼らは自分自身の出自さえ知らず、とくに専門ももっていなかったからだ。彼らは職をもとめて食い下がりはしなかった [5]。早く亡くなった [7] 長男もふくめて、彼らの子どもたちが生まれた [6] のもヴィトリーでだった。子どもたちのおかげで、彼らは [行政から] 住居を貸してもらえた [8]。ふたりめの子がいるようになってから、団地に入居できるようになるまでのあいだということで、解体を中止した [10] 家が彼らにあてがわれた [9]。しかしその団地は結局完成せず [11]、その家にいつづけた [12]。家は寝室と台所のふた部屋だったが、— 子どもは毎年生まれていたの — 市が軽い建材で、台所から廊下でへだてられた共同寝室を作ってくれた。その廊下でジャンヌとエルネストは寝ていた。彼らは 7 人の子どもたちのうち最も年上のふたりだった。残りの 5 人は共同寝室で寝ていた。カトリック慈善団が、よい状態の石炭ストーヴを寄付してくれた [13]。

子どもたちの就学の問題は、市職員にも、子どもたちにも、両親にも、まじめに問われたことがなかった [14]。一度、両親が教員に家まで子どもたちを教えにきてもらえないかとたずねた [15] ときは、なんでもうずうしい、つぎにはなにをよこせと言うのか、と言われた [16]。そう、そんなぐあいにことは進んだのだ [17]。彼らに関する市役所の報告書では、どれでも、彼らの意欲のなさ、かれらが執拗に示す奇妙な執着が報告されていた [18]。

そのようなわけで、彼らは電車のなかや、古本屋の本棚や、ごみ箱のわきで見つけた本を読む習慣があった。

この例にあらわれる大過去形のうち、[1] だけは、従属節中で、主節の半過去形に対する先行性をあらわす、いっそう一般的な例である。これ以外の例はいずれも、遡行的な大過去形の例である。全体の話の流れを追うと、第 1、第 4 段落では読書習慣について語られており、そのあいだに、両親がヴィトリーに来て、家族で住みつづけるにいたった経緯のフラッシュバックが第 2

～第3段落で語られている。この第2～第3段落が大過去形を基調として書かれているため、[2] ～ [18] の大過去形の一連の例が生起している。この点は、大過去形が語りにおいて遡行性を基本として用いられるという本稿の主張と合致している。また、[2] ～ [18] は時系列にもとづいて継ぎ的な事態をあらわしており、大過去形が局所的に物語の前景をなしているといえる。

それではなぜ、フラッシュバックの部分では大過去形が前景をあらわすことができるのであろうか。また、その際、単純過去形を基調とする通常の語りのテキストとくらべて、どのような違いがあるのであろうか。

まず言えることは、語りのテキストの前景において基調となるアスペクトは、それぞれの事行を過不足なく視点内におさめるタイプの完了相、すなわち全体的アスペクト (aspect global) であるということである。これにもっとも合致する時制は単純過去形である。それに対して、大過去形に本来的なアスペクトは、複合時制という点では、ある事行が果たされたあとの結果状態に視点をおく結果残存型の完了アスペクト (aspect accompli) であり、助動詞が半過去形におかれているという点では未完了アスペクト (aspect inaccompli) でもある。いずれも、そのままでは全体的アスペクトとは相いれない。

しかし、3節で先行性用法に関してのべたように、「本動詞の事行 P から結果状態 Q に移行したということは、事行 P は Q よりも前方 (過去方向) にあるということである」という推論を介して、結果状態ではなく果たされた事行そのものに注意を向けるようにすることはできる。そのことから、語りの前景のアスペクトである全体的アスペクトに擬似的に近づくことになる。

このような、いささか迂遠なしかたで物語の前景をあらわすことにしても、フラッシュバック部分が主たる語りとは位相がことなることを明示することをえらんでいるのがフランス語の特徴である。思えば、つとに Benveniste (1966) が単純過去形に関して言っているように、通常の物語のテキストにおいても、単純過去形を基調とすることによって物語というテキスト類型を示そうとするのがフランス語の特徴であった。フラッシュバックもまた、物語のなかでの下位区分であるとはいえ、ある種のテキスト類型をなして、その類型を示すことに大過去形が役だっているのである<sup>11</sup>。

## 6. おわりに

本稿では、フランス語の大過去形の基本図式を規定したあと、それを一見直接的には適用しがたい「先行性」用法への推論による拡張を論じ、さらに、ロマンス諸語との対訳コーパスを用いた調査にもとづいて、フランス語の大過去形に特徴的な用法である「説明の大過去形」、ならびに物語における連鎖的使用について検討した。「説明の大過去形」については、事態そのもののアスペクトとはことなる、視点の特徴を反映する「叙想的アスペクト」の概念を介して説明すること

---

<sup>11</sup> 本稿脱稿後に披見した、岸 (2018 b) で提示されている、大過去形が一段目の過去時の出来事と二段目の過去時の出来事の双方を活性化させ、かつ関連づけて解釈させるとする仮説は、「説明の大過去形」やフラッシュバック用法を理解するうえでも有望な方途であると思われる。この仮説を参考にした議論も、今後の課題としておきたい。

が可能となった。そして物語における連鎖的使用については、フラッシュバックの個所で局所的に大過去形が物語の前景の基調となり、それが物語のなかでも独特のテキスト類型をなしていると考えた。

大過去形については、今回扱えなかった問題も残っている。稿をあらためて論じたい。

## 参考文献

- Barceló, G. J. et J. Bres (2006) : *Les temps de l'indicatif en français*, Ophrys.
- Benveniste, É. (1966) : *Problème de linguistique générale*, 1, Gallimard.
- Berthonneau, A.-M. et Kleiber, G. (1993) : « Pour une nouvelle approche de l'imparfait : l'imparfait, un temps anaphorique méronomique », *Langages*, 112, pp. 55-73.
- Bres, J. (2007) : « Et plus si affinités... Des liaisons entre les instructions du plus-que-parfait et les relations d'ordre temporel », *Cahiers Chronos*, 18, pp.139-157.
- Comrie, B. (1976) : *Aspect*, Cambridge University Press.
- Confais, J.-P. (1990) : *Temps, mode, aspect*, Presses Universitaires du Mirail.
- 藤田 健 (2003) : 「完了アスペクトの文法への体系化に関する類型論的考察」『フランス研究』北海道大学, 4, pp.49-91.
- 藤田 健 (2018) : 「イタリア語の大過去」山村ひろみ (編)『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』科研費報告書 CDR, 九州大学.
- Gibo, L. (2018) : « A alternância entre o perfeito e o mais-que-perfeito: metáfora temporal e mudança de ponto de vista », *Bulletin of the Faculty of Foreign Studies*, Sophia University, 52, pp.1-24..
- ギボ・ルシーラ (2018) : 「ブラジルポルトガル語の大過去」山村ひろみ (編)『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』科研費報告書 CDR, 九州大学.
- Gosselin, L. (1996) : *Sémantique de la temporalité en français*, Duculot.
- Gosselin, L. (2005) : *Temporalité et modalité*, Duculot.
- Grevisse, M. et A. Goose (2011) : *Le bon usage*, 15<sup>ème</sup> édition, Duculot.
- Guillaume, G. (1929, rééd. 1970) : *Temps et verbe*, Honoré Champion.
- 春木仁孝 (2000) : 「現代フランス語の大過去のテンスとアスペクト」『言語文化研究』大阪大学, 26, pp.179-197.
- 春木仁孝 (2014) : 「フランス語の時制と認知モード : 時間的先行性を表わさない大過去を中心に」春木仁孝・東郷雄二編『フランス語学の最前線』ひつじ書房, 2, pp.1-44.
- Imbs, P. (1960) : *L'emploi des temps verbaux en français moderne*, Klincksieck.
- 井元秀剛 (2010) : 『メンタルスペース理論による日仏英時制研究』ひつじ書房.
- 井元秀剛 (2017) : 『時制の謎を解く』白水社.
- 川本茂雄 (1985) : 『言語の構造』白水社.
- Kirsten, G. et alii (1976) : *Grammatica italiana per tutti*, Klett.
- 岸 彩子 (2018 a) : 「フランス語の大過去 I」山村ひろみ (編)『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』科研費報告書 CDR, 九州大学.
- 岸 彩子 (2018 b) : 「大過去と『場』の共有」日本フランス語フランス文学会 2018 年度関西支部大会 (2018 年 12 月 1 日、於大阪府立大学) 発表ハンドアウト.
- 小林 惺 (2006) : 『イタリア語文法ハンドブック』白水社.

- 黒澤直俊 (2018) : 「ポルトガルポルトガル語の大過去」 山村ひろみ (編) 『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』 科研費報告書 CDR, 九州大学.
- Le Bidois, G. et R. Le Bidois (1935-1938) : *Syntaxe du français moderne*, 2 vols, Picard.
- Leeman-Bouix, D. (1994, 2002) : *Grammaire du verbe français*, Nathan.
- Maingueneau, D. (1999) : *L'Enonciation en linguistique française*, Hachette.
- 宮脇玲奈 (2015) : 「過去の反実仮定の帰結節における大過去形」 『年報・フランス研究』 関西学院大学, 49, pp.47-60..
- 宮脇玲奈 (2016) : 「場面を導入する大過去形」 『年報・フランス研究』 関西学院大学, 50, pp.63-76.
- Nef, F. (1986) : *Sémantique de la référence temporelle en français moderne*, Peter Lang.
- 西村牧夫 (1985, 2001) : 「現在にかかわる大過去」 東京外国語大学グループ 《セメイオン》 『フランス語学の諸問題』 三修社, 1, p.50-62
- Novakova, I. (2001) : *Sémantique du futur*, L'Harmattan.
- 小熊和郎 (2018) : 「フランス語の大過去 II」 山村ひろみ (編) 『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』 科研費報告書 CDR, 九州大学.
- Pérennec, M.-H. (dir.) (2002) : *Le verbe en action*, E.L.L.U.G.
- Popescu, Ș. (1984) : *Gramatică practică a limbii române*, Editura didactică și pedagogică.
- Riegel, M. et alii (1994) : *Grammaire méthodique du français*, P.U.F.
- 坂本鉄男 (2009) : 『現代イタリア文法・新装版』 白水社.
- Schoot, H. G. (1968) : *Le système verbal du français contemporain*, Mouton.
- 曾我祐典 (2015) : 「過去のことを表すフランス語時制」 『人文論究』 関西学院大学, 65, 1, pp.183-201.
- 曾我祐典 (2018) : 「間一髪の状態を表す「文頭語句+主節」」 『フランス語学研究』 52, pp.23-43.
- Sten, H. (1952) : *Les temps du verbe fini (indicatif) en français moderne*, Munksgaard.
- 鈴木信吾 (2018) : 「ルーマニア語の大過去」 山村ひろみ (編) 『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』 科研費報告書 CDR, 九州大学.
- Touratier, Chr. (1996) : *Le système verbal français*, Colin.
- Wagner, R. L. et J. Pinchon (1962, 1991) : *Grammaire du français classique et moderne*, Hachette.
- 渡邊淳也 (2004) : 『フランス語における証拠性の意味論』 早美出版社.
- 渡邊淳也 (2006) : 「フランス語の「丁寧の半過去」と日本語の「よろしかったでしょうか」型語法との対照研究」 『文藝言語研究 言語篇』 筑波大学, 50, pp.41-84.
- Watanabe, J. (2006) : « Addition quantitative, addition qualitative et la locution non seulement », Kawaguchi, J. et alii (éds.) *Cognition et émotion dans le langage*, Centre de recherche interdisciplinaire sur le langage, Université Keio, pp.191-205.
- 渡邊淳也 (2007 a) : 「フランス語の「丁寧の半過去」と日本語の「よろしかったでしょうか」型語法」 『フランス語学研究』 41, pp.54-59.
- 渡邊淳也 (2007 b) : 「間一髪の状態をめぐって」 『文藝言語研究 言語篇』 筑波大学, 52, pp.151-175.
- 渡邊淳也 (2008) : 「分岐的時間の表象を用いた時制・モダリティの連関の説明の試み」 『文藝言語研究 言語篇』 筑波大学, 54, pp.15-44.
- 渡邊淳也 (2009 a) : 「時制とモダリティの連関への新たな接近法」 『フランス語学研究』 43, pp.77-83.
- 渡邊淳也 (2009 b) : 「フランス語およびロマンス諸語における単純未来形の総合化・文法化について」 『文藝言語研究 言語篇』 筑波大学, 55, pp.123-144.

- 渡邊淳也 (2011): 「ジェロンディフと現在分詞について」『文藝言語研究 言語篇』筑波大学, 60, pp.121-181.
- 渡邊淳也 (2012): 「叙想的時制と叙想的アスペクト」『文藝言語研究 言語篇』筑波大学, 61, pp.191-234.
- 渡邊淳也 (2013 a): 「単純未来形と迂言的未来形について」『文藝言語研究 言語篇』筑波大学, 62, pp.69-106.
- 渡邊淳也 (2013 b): 「主語不一致ジェロンディフについて」『文藝言語研究 言語篇』筑波大学, 63, pp.95-178.
- 渡邊淳也 (2014 a): 『フランス語の時制とモダリティ』早美出版社.
- 渡邊淳也 (2014 b): 「叙想的時制、叙想的アスペクトと認知モード」春木仁孝・東郷雄二 (編)『フランス語学の最前線』2, ひつじ書房, pp.177-213.
- 渡邊淳也 (2014 c): 「En attendant について」『フランス語学研究』48, pp.85-93.
- 渡邊淳也 (2014 d): 「前未来形のモダールな用法について」『文藝言語研究 言語篇』筑波大学, 66, pp.35-56.
- 渡邊淳也 (2015 a): 「Ceci dit, cela dit について」『文藝言語研究 言語篇』筑波大学, 67, pp.99-120.
- 渡邊淳也 (2015 b): 「Essuie-tout の意味論」『外国語教育論集』筑波大学, 37, pp.75-88.
- 渡邊淳也 (2015 c): 「論証的ポリフォニー理論をめぐって」川口順二 (編)『フランス語学の最前線』3, ひつじ書房, pp.275-304.
- 渡邊淳也 (2015 d): 「主語不一致ジェロンディフと認知モード」『フランス語フランス文学研究』日本フランス語フランス文学会, 107, pp.155-169.
- Watanabe, J. (2015 e): « G erondif non-cor ef erentiel », *Voix plurielles*, 12, 1, pp.207-224.
- 渡邊淳也 (2016): 「En passant の文法化・語用論化について」大久保朝憲ほか (編)『パロールの言語学』日本フランス語学会, pp.153-167.
- 渡邊淳也 (2017 a): 『ジェロンディフと現在分詞の意味論・語用論』デザインエッグ.
- 渡邊淳也 (2017 b): 『コルシカ語基本文法』早美出版社.
- 渡邊淳也 (2017 c): 「フランス語および西ロマンス諸語における「行く」型移動動詞の文法化について」早瀬尚子・天野みどり (編)『構文と意味の拡がり』くろしお出版, pp.223-245.
- 渡邊淳也 (2018 a): 『叙法の謎を解く』白水社.
- 渡邊淳也 (2018 b): 「フランス語の大過去 II」山村ひろみ (編)『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』科研費報告書 CDR, 九州大学.
- 渡邊淳也 (近刊 a): 「フランス語の語彙の操作性とアフオーダンス」『ロマンス語学研究』日本ロマンス語学会, 51.
- 渡邊淳也 (近刊 b): 「フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト」定延利之 (編)『テキストと時間』ひつじ書房.
- 渡邊淳也・小川紋奈 (2018): 「フランス語の単純未来形・前未来形とロマンス諸語における対応形式の対照研究」渡邊淳也・和田尚明 (編):『諸言語における TAME の発現について』筑波大学 TAME 研究会, pp.59-82.
- 山村ひろみ (2006): 「アガサ・クリスティの推理短編小説における過去の表現: フランス語とスペイン語の対照の観点から」『比較社会文化』九州大学, 12, pp.39-56.
- 山村ひろみ (2018): 「スペイン語の大過去」山村ひろみ (編)『現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究』科研費報告書 CDR, 九州大学.

(わたなべ じゅんや／筑波大学准教授)